

今日を愛する。
LION

ライオン サステナビリティレポート 2018



「今日を愛する。」ことは、一生を大切にすること。



いつも人のそばにいて、

人の清潔、人の健康、人の快適、

それこそが、私たちライオンの変わることのない

めぐり来るすべての一日の、

そして人の環境を守りつづけること。

使命であり、誇りでもある。そう考えています。

社是・経営理念・ライオン企業行動憲章

社 是

われわれは、「愛の精神の実践」を経営の基本とし、
人々の幸福と生活の向上に寄与する。

経営理念

- 1 われわれは、人の力、技術の力、マーケティングの力を結集して、日々の暮らしに役立つ優良製品を提供する。
- 2 われわれは、創業以来の伝統である「挑戦と創造の心」を大切にし、事業の持続的発展に努める。
- 3 われわれは、企業を支えるすべての人々に深く感謝し、誠意と相互の信頼をもって共栄をはかる。

ライオン企業行動憲章

(前文) 私たちライオン・グループは、単に公正な競争を通じて利潤を追求するという経済的主体のみならず、広く社会にとって有用な存在であり続ける。次の10原則に基づき、国の内外を問わず、人権を尊重し、全ての法律、国際ルール及びその精神を遵守し、公共の福祉に反しないよう社会的良識をもって、持続可能な社会の創造に向けて自主的に行動する。

- 1.【基本的使命】 私たちは、日々の暮らしに役立つ優良で安全な製品・サービスを提供し、お客様（消費者及びユーザーの皆様）の満足と信頼を獲得する。
 - 2.【社会規範の遵守】 私たちは、関連法規を遵守し、公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行う。また、政治、行政との関係においても、健全で正常な関係を維持する。
 - 3.【情報開示】 私たちは、社会に開かれた企業として、株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを積極的に行い、企業経営全般にわたる情報を適時適切に開示する。
 - 4.【環境対応】 私たちは、経済発展と環境保全が両立する「持続可能な社会」を創造していくため、自主的、積極的に行動する。
 - 5.【就業環境の整備】 私たちは、就業者の多様性と人格・個性を尊重した公正な処遇を実践するとともに、就業者のゆとりと豊かさを実現するために安全で働きやすい環境を確保する。
 - 6.【社会貢献】 私たちは、社会の一員として、積極的に社会貢献活動を行う。
 - 7.【反社会的勢力との対決】 私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力、団体との対決姿勢を貫く。
 - 8.【海外での貢献】 私たちは、海外においても、国際ルールや関連する国の法律の遵守はもとより、現地の文化及び慣習を尊重し、誠意と相互の信頼をもって現地の発展に貢献する。
 - 9.【企業倫理の徹底】 経営者は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、ライオン・グループ全体に周知徹底する。また、社内外の声を常時把握し、意思疎通を深め、実効ある社内体制整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図る。
 - 10.【問題解決】 本憲章に反する事態が発生したときには、経営者自らが問題解決にあたる姿勢を内外に表明し、その事実関係を明確にし原因の究明と再発の防止に努める。また、社会への迅速かつ的確な情報公開と説明責任を遂行し、社会にも十分理解される形で事態の解決を図り、権限と責任を明確にした上で、自らを含めて厳正な処分を行う。
- (2003年1月1日制定、2008年1月1日改訂)

コーポレートメッセージ

幸せは、名もない一日につまっています。
どんなさりげない一日にも、心を澄ませば
感じる幸せが、いっぱいつまっています。
小鳥の声でめぐる幸せ。洗いたてのシャツに
腕を通す幸せ。炊きたてのご飯を
噛みしめる幸せ。雲ひとつない青空を
仰ぎ見る幸せ。「行ってらっしゃい」と
家族に送り出される幸せ。誕生日や、
結婚記念日や、クリスマスも大切だけれど、
人生の大半を占める、そんなふつうの
一日一日がどれほど大切か。ライオンは、
そのことを誰よりも知っています。
なぜなら、そこにライオンがいるからです。
そこに、ライオンの仕事場があるからです。
いつも人のそばにいて、めぐり来る
すべての一日の、人の清潔、人の健康、
人の快適、そして人の環境を守りつづけること。
それこそが、私たちライオンの変わることのない
使命であり、誇りでもある。そう考えています。
幸せは、毎日生まれる。
人のからだやくらしが求める、
希望に満ちた新しい未来を、日本ばかりでなく、
広く世界にも届けられることを大きな
よろこびとしたい、私たちライオンです。

今日を愛する。
LION



企業スローガン

今日を愛する。

根底にある想い

LIONは、120年以上にわたり人々のくらしと共に歩んでまいりました。
そこで学んだことは、人の一生は、「今日」という一日一日を積み重ねたものであり、
毎日を、前向きに、充実して生きることこそが、幸せの本質だということです。
“今日”を大切にすることは、一生を大切にすることです。
価値ある未来に向かって、めぐりくる“今日”という一日一日を、この瞬間を、
いとおしみながら、ていねいに、前向きに生きていくこと、そんな一人ひとりの
「今日を愛する。」に役立っていくことが、私たちLIONの使命であると決意し、
この想いをコーポレートメッセージに込めました。
そして、これを一言で表現したのが企業スローガン「今日を愛する。」です。

CONTENTS

- 03 社是・経営理念
ライオン企業行動憲章
- 04 コーポレートメッセージ
- 06 企業情報
- 07 ライオングループの歴史
- 09 主な事業内容
- 11 トップメッセージ
- 13 新経営ビジョン
「次世代ヘルスケアの
リーディングカンパニーへ」

ライオンのサステナビリティ

- 15 ライオングループの価値創造
- 17 ライオングループの
サステナビリティ重要課題
(2015~2017年)
- 21 中期経営計画「LIVE計画」
(2018~2020年)における
サステナビリティ重要課題の特定

2017年ハイライト

- 25 0才からの予防歯科
- 29 オープンイノベーションの
取り組み
- 31 事業所での生物多様性
保全活動

- 35 組織統治
- 38 人権
- 39 労働慣行
- 43 環境
- 49 公正な事業慣行
- 51 消費者課題
- 56 コミュニティへの参画および発展

- 59 第三者所見
- 60 ライオンから

編集方針

当社は、サステナビリティレポートを「サステナビリティへの取り組みを開示し、ステークホルダーの声を取り入れながら、活動をさらに進めていくための重要なツール」と位置づけています。

サステナビリティレポート2018編集方針

- 2011年から社会的責任に関する国際的な規格であるISO26000に沿ってサステナビリティへの取り組みの体系化を進めており、レポートもそれに合わせた構成にしています。
- サステナビリティ重要課題と当社の経営計画に合わせたサステナビリティ中期目標に対する進捗を開示しています。
- 特に進捗した活動を「2017年ハイライト」として詳しく掲載し、その活動内容を把握しやすくしています。
- ISO26000の各中核主題のページの最後に、活動の詳細が掲載されているWebサイトのURLを記載しています。
- 当社の主なWebページのURLを二次元コード化(スマートフォン対応サイト)し、アクセスしやすくしています。
- 読みやすさに配慮して開発された「ユニバーサルデザインフォント」を採用しています。
- 客観的な評価を示すため、外部有識者から第三者所見を受け、掲載しています。
- 当レポートの作成にあたり、「GRIサステナビリティ・レポート・スタンダード」を参照しています。
- 当レポートに掲載しきれなかった情報を含め、当社のサステナビリティへの取り組みについては当社のWebサイトで網羅的に掲載しています。

参考にしたガイドライン

- 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
- Global Reporting Initiative
「GRIサステナビリティ・レポート・スタンダード」
- 日本規格協会「ISO26000:2010社会的責任に関する手引」

各種ガイドライン 対照表

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/guideline/>

対象組織

- ライオン株式会社および国内のすべての連結子会社を基本としています。p.17-20、23-24のサステナビリティ重要課題および目標は、海外連結子会社も含まれます。

*掲載する活動やデータについて対象範囲が異なる場合は、個々にその旨を明記しています。

対象期間

- 2017年1月1日~2017年12月31日
(ただし、活動内容は一部2018年の取り組みを含んでいます。)

企業情報

《 会社概要 》

商号	ライオン株式会社 (Lion Corporation)
本社所在地	〒130-8644 東京都墨田区本所一丁目3番7号
創業	1891年10月30日
資本金	344億3,372万円(2017年12月31日現在)
代表者	代表取締役 社長執行役員 濱 逸夫
従業員数	連結:7,075名 個別:2,550名(2017年12月31日現在)
売上高	連結:4,104億 個別:2,642億(2017年12月期)
工場	千葉工場(市原市)、小田原工場(小田原市)、 大阪工場(堺市)、明石工場(明石市)
研究所	平井(江戸川区)、小田原(小田原市)
オフィス	札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡

【グループ・関連会社一覧】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/company/group/>

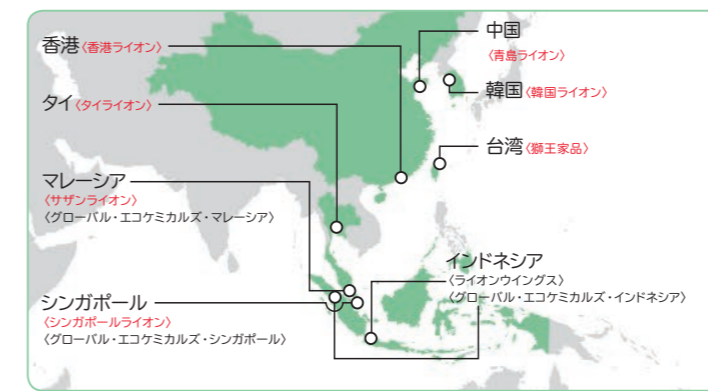
《 セグメント別売上高 》

一般用消費財事業	2,908.9億円
・オーラルケア分野	682.7億円
・ビューティケア分野	245.4億円
・ファブリックケア分野	795.4億円
・リビングケア分野	207.8億円
・薬品分野	390.2億円
・その他の分野	587.0億円
産業用品事業	557.6億円
海外事業	1,200.9億円
その他	305.6億円
調整額*	▲868.3億円
連結売上高	4,104.8億円

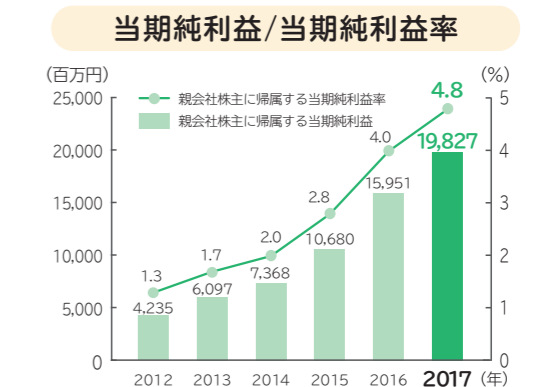
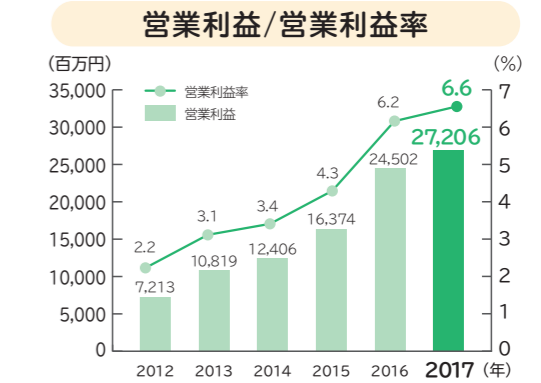
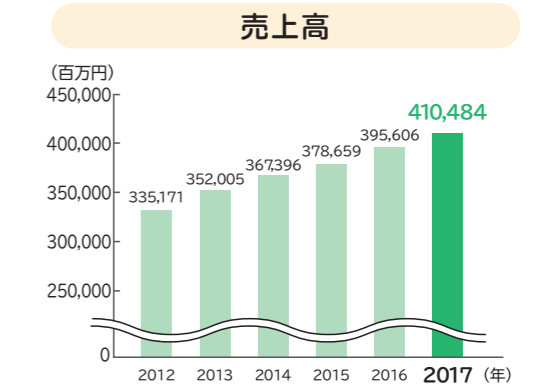
*各セグメント内、セグメント間の売上高

《 海外グループ会社の所在地 》

海外売上高前年比 109% 海外売上高構成比(連結) 26%
(調整額含む)



《 業績推移(連結) 》



(注) 2016年12月期からは【当期純利益】に変わり、【親会社株主に帰属する当期純利益】を記載しております。

【IR資料室】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/ir/library/>



《 国内連結子会社一覧 》

- ライオンケミカル株式会社
- ライオンビジネスサービス株式会社
- ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ株式会社
- ライオンハイジーン株式会社
- ライオン商事株式会社
- ライオンパッケージング株式会社
- ライオンエンジニアリング株式会社
- ライオン流通サービス株式会社
- ライオンコーディアルサポート株式会社
- ライオン歯科材料株式会社
- ライオンともに株式会社
- 出光ライオンコンポジット株式会社

ライオングループの歴史

石けんとハミガキから始まったライオンの事業は、創業以来人々の健康な毎日を目指して、商品の提供とともに、生活者への啓発活動や情報提供を推進し、よき習慣づくりを提案してきました。また、古くから地球環境の汚染が世界共通の問題であることを認識し、環境に優しい商品の開発など、環境対応に取り組んできました。時代とともに変化する社会課題に対応すべく、古くからサステナビリティへの取り組みを進めています。

口腔保健

1896年～
口腔保健の普及／
社会貢献活動の原点



獅子印ライオン歯磨
袋の裏の慈善券
(社会貢献活動の原点)

1913年～
子どものための歯みがき習慣の
啓発活動を開始



商品の付録のしおり・絵本
(子どもへの口腔保健活動の原点)
ライオン児童歯科院

1960年代～
市場を拡大し、
世界に通用する製品を開発



小田原工場竣工
(生産体制の増強)
ホワイト&ホワイト
(使いやすい容器、ラミネートチューブの開発)

現在
口腔保健から全身健康へ
「オーラルヘルスケア」の推進



多様化する口腔の健康問題に、
より科学的な研究で対応

クリニカライオン
(むし歯予防)
デンターライオン
(歯槽膿漏予防)
デンターシステムシリーズ
(歯周病予防)

クリニカ
アドバンテージシリーズ
(「予防歯科」の推進)
アジア地域での
オーラルヘルスケア普及活動

清潔・快適

1891年～1940年代
洗剤で「洗う」ということの普及啓発



標準家庭洗濯法
(洗濯方法の啓発)
ライボン
(日本初の家庭用鉱油系合成洗剤)

1950年代
野菜を洗うための洗剤で
寄生虫による健康被害への対応



ライボンF
(日本食品衛生協会推奨第一号製品)

1960年代～
人々の多様な
生活ニーズへの対応



ママレモン
(「手に優しい」食器・野菜用洗剤)

現在
アジアの
清潔・快適な暮らしに貢献



海外NANOX
海外キレイキレイ

手洗い習慣普及活動

環境対応

1920年代～
植物性原料の使用



植物性ライオンせんたく石鹸
(日本初の家庭用植物性原料の石けん)

1960年代～1980年代
水環境問題への対応
湖沼の富栄養化や洗剤の使用と関係のある
河川の発泡に対応



ダッシュ
無りんトップ

1990年代～
植物原料の商品を拡大



エモロン
植物物語
スパーク

現在
商品・コミュニケーションを通じた環境対応



「暮らし、まいにち、エコ。」
マーク
(当社のエコ商品に
付与するマーク)
環境配慮型商品の開発
環境目標の推進

主な事業内容

オーラルケア事業

みなさまの健康な毎日を支える、
一歩進んだオーラルケアを実現します。

主要製品分野

ハミガキ、ハブラシ、デンタルリンス、
デンタル用品など



ビューティケア事業

ヘアケア&スキンケアで、心身の健康と
快適をお届けします。

主要製品分野

ハンドソープ、ボディソープ、制汗剤、
シャンプー、リンス、男性化粧品、育毛剤など



ファブリックケア事業

いつも清潔な衣服を気持ちよく着て
いただくために、安心して使える製品
をお届けします。

主要製品分野

衣料用洗剤、柔軟仕上げ剤、漂白剤、
衣類ケア剤など



リビングケア事業

みなさまの清潔で快適な食・住生活に
役立つ製品をご提供します。

主要製品分野

台所用洗剤、住居用洗剤、
調理関連品など



薬品事業

高まるセルフメディケーションのニーズ
に豊富なブランドでお応えします。

主要製品分野

解熱鎮痛薬、止瀉薬、胃腸薬、
目薬、ドリンク剤など



ウェルネス・ダイレクト事業

様々なお客様の健康・美容ニーズに対応
した通販専用製品をご提供します。

主要製品分野

健康食品、エイジングケア製品など



特販事業

お客様へ各種贈答(ギフト)商品や、お得意先様への
特別注文品をご提供します。

主要製品分野

ギフト、ノベルティなど



ペット事業(ライオン商事)

いつも清潔に、ずっと健康に、そして快適に。
人とペットが求める幸せな暮らしを支援します。

主要製品分野

サニタリー用品、オーラルケア、ボディケア、
ランドリーケア、空間ケアなど



海外事業

タイ、マレーシア、韓国などアジアの8つの国と
地域で展開し、文化や言葉を超えグローバル
に、暮らしに役立つ製品をご提供します。

主要製品分野

衣料用洗剤、台所用洗剤、ハミガキ、ハブラシ、
ハンドソープ、ボディソープなど



トップメッセージ

次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーへ

ライオンは、「健康、快適、清潔・衛生を通じた新たな顧客体験価値の創造」により、毎日の習慣を、もっとさりげなく、楽しく、前向きなものへ“リ・デザイン”することで、一人ひとりの「心と身体のヘルスケア」を実現し、事業を通じて社会のお役に立ち続けます。

代表取締役 社長執行役員

濱 逸夫



ライオンは1891年の創業以来、時代とともに変化する社会課題に対して、事業を通じて応え続けてきました。2015年から2017年の中期経営計画（V-2計画）においても、「予防歯科」の普及を中心としたオーラルヘルスケアの推進など、事業や啓発活動を通じ、社会課題解決に向けた取り組みを進めるとともに、ESG（環境・社会・ガバナンス）の視点から経営基盤の強化に努めました。

今日、AIやIoTに象徴されるデジタル技術の劇的な進歩による人々の生活の著しい変化、経済成長のスピード鈍化、高齢化の進行など、アジアそして日本において、くらしや社会の環境は加速度を増して大きく変化しています。

また、国内外において、QOL（Quality of Life：生活の質）の向上や健康寿命の延伸などヘルスケアに対するニーズが高まる中、毎日のくらしに身近な存在である当社の役割は今後ますます大きくなると考えています。このような大きな変化の中で、これからも新しい価値を創出し、アジア各国・地域の社会やお客様から必要とされる会社であり続けるためには、ライオングループの進むべき方向性をより明確化し、変革に向けた動きを加速させる必要があります。

そこで、2030年までに実現したい姿である経営ビジョン「次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーへ」を新たに策定いたしました。

「健康、快適、清潔・衛生を通じた新たな顧客体験価値の創造」により、毎日の習慣を、もっとさりげなく、楽しく、前向きなものへ“リ・デザイン”することで、一人ひとりの「心と身体のヘルスケア」の実現を目指します。新しい視点から人々の幸せづくりをリードし、「健康寿命の延伸」「Well-Beingな毎日」に貢献したいと考えています。

時代が変わっても「事業を通じて社会のお役に立つ」という創業の精神は、私たちの中でDNAとして脈々と受け継がれています。

中期経営計画「LIVE計画（LION Value Evolution Plan）」（2018～2020年）を

実行する中でも、さまざまなテクノロジーやサービスの新結合による一人ひとりのヘルスケアを実現する新しい事業価値創出を進めるとともに、それを可能とする“多様でオープンな”人材・組織・文化の醸成をはかり、将来にわたり、社会課題に応え続けていきます。

サステナブルな経営を目指して

ライオンは2009年に、持続可能な成長を実現する世界的な枠組みである「国連グローバル・コンパクト」への支持を表明しました。社会的責任の国際規格「ISO26000」に示された社会からの要請や、SDGsなどの社会全体の課題を理解したうえで、経営課題とすり合わせ、サステナビリティ重要課題を特定し、海外グループも含めたライオングループ全体で中期目標を設定し、グループとしての取り組みを進めております。

LIVE計画においても、新たにサステナビリティ重要課題を特定し、目標設定を行いました。

また、サステナブルな経営の実現に向けてCSV*を推進していくために、2018年1月より、社内に「CSV推進会議」を新設しました。当会議においては、社会価値・事業価値双方の創出につながる中長期のCSV戦略の策定および当社が将来にわたって社会からの期待に応えるためのESGに関する重要事項の検討を行うとともに、実行状況のモニタリングを行います。

今後もサステナブルな社会への貢献に向けて、ESGの取り組み強化をはかるとともに、事業を通じた社会との共通価値の創出を進め、社会からの期待に応えられる信頼性の高い企業となるよう、企業価値の一層の向上に努めてまいります。

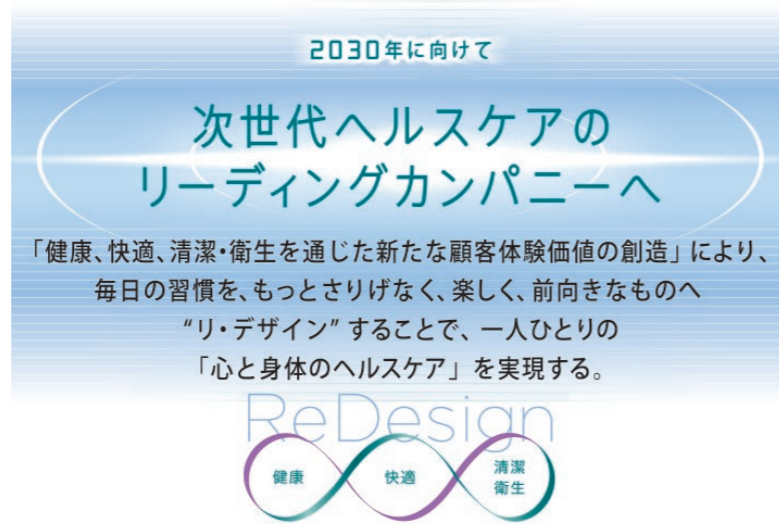
* CSV (Creating Shared Value)
社会と事業の共通価値の創造

新経営ビジョン

「次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーへ」

ライオングループを取り巻く環境はデジタルトランスフォーメーションの進展などにより、想像を超えるスピードで大きく変化しています。そうした外部環境の中長期的な変化をふまえ、将来に向けた変革を加速するために、2030年に向けた新経営ビジョンとその実現に向けた中期経営計画を策定しました。

新たな経営ビジョン・中期経営計画では、国内外にて高まるQOL(Quality of Life：生活の質)の向上などのヘルスケアに関する社会課題解決に事業を通じて取り組み、国連が提唱する「SDGs(持続可能な開発目標)」の達成への貢献を目指します。



LIVE計画

経営ビジョンの実現に向けて、2018年～2020年の3カ年を期間とする中期経営計画「LIVE計画(LION Value Evolution Plan)」(ライブ計画)を推進します。

LIVE計画の目的

「次世代ヘルスケアカンパニーへの進化」をテーマとし、国内・海外において将来を見据えた成長のための取り組みや体制整備を進めるとともに、経営効率の向上を更に加速させ収益体質の強化を目指します。

LIVE計画における基本戦略

1 新価値創造による事業の拡張・進化

様々なテクノロジーやサービスとの新結合により、一人ひとりの「心と身体のヘルスケア」を実現する新しい事業価値を創出します。

- ① Oral-to-Body Solution: 口腔ケアから全身健康ケアにつながる「オーラルヘルスケア事業」への拡張・進化を目指します。
- ② Daily Self-Care Enhancement: 日常生活をQOL向上に向けた健康習慣へと「リ・デザイン」するヘルスケア事業への進化を図ります。
- ③ Infotech Health Support: 先端テクノロジー(IoTやAI等)を活用した新たなヘルスケアビジネスモデルを創出します。

2 グローカライゼーションによる海外事業の成長加速

成長するアジア市場を中心に、グローバル化とローカル化の融合を図り、独自の競争優位を創出し、事業規模の拡大と参入エリアの拡張を推進します。

- ① リージョナルマネジメント強化によるグループ経営の進化を図ります。
- ② ECチャネルの活用やM&A等を起点としたビジネスエリアの拡大を目指します。

SDGsへの貢献

ライオングループは、2030年に向け、次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーとして、商品・サービスを通じて目標3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」の達成に貢献していくとともに、事業プロセスにおいても中期経営計画「LIVE計画」の達成に向けた取り組みを通じてSDGsが目指す世界の実現に寄与します。



2020年 サステナビリティ重要課題・目標の推進

➡ 関連情報 p.21-24

3 事業構造改革による経営基盤の強化

環境変化を先取りした経営インフラの整備や事業ポートフォリオの見直し等により、持続的な事業成長を可能とする経営基盤の強化に取り組みます。

- ① 事業成長を牽引する柔軟且つ効率的な生産インフラへの投資を強化します。
- ② 先進的でサステナブルなサプライチェーンの整備を進めます。
- ③ グループ経営高度化に向けて、情報システム基盤を強化します。
- ④ 事業分野・グループ体制の見直しを進め、経営資源・事業活動の効率化を図ります。

4 変革に向けたダイナミズムの創出

“多様でオープンな”人材・組織・文化で、グローバル競争に勝ち抜く企業力の醸成を目指します。

- ① 多様な人材活用による人のダイナミズムを創出します。
- ② オープンイノベーションによる挑戦・創造する組織のダイナミズムを創出します。
- ③ ESG(環境・社会・ガバナンス)への取り組みや健康経営の強化による経営のダイナミズムを創出します。

ライオングループの価値創造

ライオンは、創業以来、「愛の精神の実践」を社是として、「より良い生活習慣づくり」を通じて、人々の毎日の健康や快適な暮らしに役立つ企業を目指してまいりました。経営ビジョン「次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーへ」の実現に向けて、新しい視点から人々の幸せづくりをリードすることで、サステナブルな社会に貢献し、企業価値の向上を目指します。

ライオン社是・経営理念

経営ビジョン：2030年に向けて

次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーへ

毎日の習慣を“リ・デザイン”することで、一人ひとりの「心と身体のヘルスケア」を実現する





ライオングループのサステナビリティ重要課題 (2015~2017年)

当社は、2011年に国際的な社会的責任の手引きであるISO26000を活用し、第三者機関の意見を参考にしながら、国内グループにおいて対応状況の確認・評価を行いました。現状把握の結果をふまえ、2012年にサステナビリティ重要課題を特定し、重要課題それぞれにおいて、中期経営計画と合わせた3カ年の中期目標を設定しました。2015年から、バウンダリー（対象範囲）を

国内グループから海外グループを含めて拡大し、目標に対する進捗状況を毎年確認・報告し、グループ全体でサステナビリティへ取り組んでいます。2017年は、下記重要課題・目標の最終年度となりました。

2015~2017年におけるサステナビリティ重要課題・目標および実績

中核主題	目指す姿	重要課題	2017年中期目標	2017年実績	関連情報ページ	当社WebページのURL
 組織統治	社会から信頼され続ける健全な経営体制の維持	ライオングループのCSR管理体制の構築	 国内 CSR方針としてのライオン企業行動憲章の浸透	<ul style="list-style-type: none"> ライオン企業行動憲章に関するeラーニングの実施（年1回実施） 	p.37	http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/compliance/
			 海外 CSRに関する方針の周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティ方針のオフィスでの掲示 サステナビリティ方針が記載されたハンドブックを従業員に配布 	p.37	http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/compliance/
			 国内 目標の進捗管理	<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティ レポート・Webによる進捗の公開（年1回実施） 	p.17-20	http://www.lion.co.jp/ja/csr/lion_csr/promotion/vision.php
			 海外 目標の設定と進捗管理	<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティ レポート・Webによる進捗の公開（年1回実施） 全ての海外連結子会社に進捗状況のヒアリング実施（年1回実施） 	p.17-20	http://www.lion.co.jp/ja/csr/lion_csr/promotion/vision.php
		リスクマネジメントの推進	 国内 多面的な想定に基づいた事業継続計画（BCP）の継続運用	<ul style="list-style-type: none"> 執行役員会でのBCPの確認と見直しの実施（年1回実施） 	p.36	http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/risk/
		コンプライアンスの浸透／内部統制	 国内 コンプライアンス意識の啓発	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス意識調査アンケートの実施（年1回実施、2017年回答率97%） eラーニングによるコンプライアンス、セクハラ・パワハラ、インサイダー取引などに関する研修の実施 	p.37	http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/compliance/
			 海外 内部統制システムの強化	<ul style="list-style-type: none"> 財務報告に係る内部統制の導入および評価実施 	-	http://www.lion.co.jp/ja/ir/library/ar/2017/
 人権	人権を尊重する体制の整備	人権に関する方針の策定と周知	 国内 人権方針としてのライオン企業行動憲章の浸透	<ul style="list-style-type: none"> ライオン企業行動憲章に関するeラーニングの実施（年1回実施） 	p.37-38	http://www.lion.co.jp/ja/csr/humanrights/duediligence/
		人権 デューデリジエンス*1	 国内 サプライヤーによるCSR活動のセルフチェックの推進とフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> サプライヤーのサステナビリティ活動のセルフチェックと、サプライヤーへの評価結果のフィードバック実施（年1回実施） 	p.49-50	http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/procurement/
			 国内 ホットラインの周知、相談・通報案件への対応	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス意識調査アンケートによる周知（年1回実施、2017年認知率98%） すべての案件への対応と収拾 	p.37	http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/compliance/
			 海外 社内通報・相談窓口の設置と運用	<ul style="list-style-type: none"> 社内外通報窓口、社内相談窓口の設置と運用 コンプライアンス教育を通じて社内にホットラインを周知 	p.37	http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/compliance/

*1 人権に関連する悪影響を認識し、防止し、対処するために組織が実施すべきステップ。

中核主題	目指す姿	重要課題	2017年中期目標	2017年実績	関連情報ページ	当社WebページのURL
 労働慣行	従業員のモラルとモチベーションの向上による意識変革	人材育成・活性化プログラムの推進	国内 目標管理制度の実施によるPDCA推進施策の浸透 グローバル人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 目標達成へのPDCAを回す取り組みを強化するための目標管理制度と研修の推進 マーケティング適性人材の発掘 	p.39	http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/development/
		働きやすい職場づくり	国内 多様な人材の活躍推進プログラムの充実 ～女性のキャリア形成支援施策実施～	<ul style="list-style-type: none"> 女性活躍推進法に基づき設定した行動目標の達成に向けた取り組み 障がい者の積極的な活用 	p.40	http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/various/
		従業員の健康管理の推進	国内 健康いきいき施策によるワーク・ライフ・バランスの推進	<ul style="list-style-type: none"> 仕事と介護・仕事と育児の両立支援策の推進 次世代法第5期行動計画の推進 	p.41	http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/work_life/
		ライオングループの労働安全衛生管理体制の充実	国内 従業員に健康でいきいきと働いてもらうための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 各階層別研修において健康管理に関する研修の実施 定期健康診断の実施(年1回実施) e-ラーニングシステムによるオーラルヘルスクア情報提供の強化 	p.42	http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/health/
		ライオングループの労働安全衛生管理体制の充実	国内 「安全衛生防災マネジメントシステム」に基づく労働安全と設備安全の充実	<ul style="list-style-type: none"> 安全衛生防災会議による安全活動のPDCA推進(年2回実施) 	p.42	http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/prevention/
 環境	「環境対応先進企業」としての持続可能な社会の発展への貢献	先進的な環境への取り組み	国内 海外 「Eco Vision 2020」の推進と進捗管理	<ul style="list-style-type: none"> 事業所での生物多様性保全活動の拡充 環境目標「Eco Vision 2020」の2017年目標に向けた進捗管理の実施 	p.31-34 p.45-46	http://www.lion.co.jp/ja/csr/highlight/ http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/ecovision2020/
		汚染の予防	国内 汚染予防対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> 法定および自主基準による排気・排水管理の徹底 業界団体、当社独自双方による河川水モニタリング 	p.44	http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/enhancement/
		ライオングループの化学物質管理の充実	国内 化学物質管理体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 原料・組成などの統合管理を行う「化学物質情報管理システム」を国内の研究開発拠点で運用開始 	p.45	http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/enhancement/
 公正な事業慣行	サプライチェーン全体でのCSR活動の推進	CSR調達の推進	国内 サプライヤーによるCSR活動のセルフチェックの推進とフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> サプライヤーのサステナビリティ活動のセルフチェックと、サプライヤーへの評価結果のフィードバック実施(年1回実施) 	p.49-50	http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/procurement/
		CSR調達の推進	国内 「Eco Vision 2020」の推進と進捗管理	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全推進委員会による進捗管理(年2回実施) RSPO認証パーム油誘導体の継続購入 	p.44, 46, 50	http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/ecovision2020/ http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/procurement/
 消費者課題	安全で安心な商品づくりによるお客様満足度の追求	持続可能な社会の発展に貢献する商品・情報の提供	国内 商品を通じた生活者の環境啓発活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> エコ商品への環境ラベルの表示と情報公開 	p.55	http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/communication/
		暮らしに役立つ生活情報の発信と啓発活動	国内 ライフスタイル・ライフステージに応じた健康で快適な生活に寄与する情報発信の拡充	<ul style="list-style-type: none"> 「暮らしのマイスター」による生活情報の創造・蓄積・発信 生活情報メディア「Lidea」による情報公開と、蓄積された情報を活用したコミュニケーションの実施 	p.54	http://www.lion.co.jp/ja/csr/consumer/communication/
		ライオングループの品質保証体制の充実	国内 品質保証管理体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> CS/PL委員会による品質保証活動のPDCA推進(年2回実施) e-ラーニングによる「品質保証の基礎」に関する研修の実施 	p.35, 51	http://www.lion.co.jp/ja/csr/consumer/quality/
		ライオングループの品質保証体制の充実	海外 各国規制対応の強化とお客様対応の充実	<ul style="list-style-type: none"> お客様対応窓口やマーケティング部門などによるお客様対応の強化 各国法規制への対応力強化 	p.53	http://www.lion.co.jp/ja/csr/consumer/opinion/
		情報セキュリティ対策の推進	国内 情報セキュリティ対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> e-ラーニングによる情報セキュリティ、ソーシャルメディアのリスク、情報管理体制に関する研修の実施 	p.55	http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/risk/
情報セキュリティ対策の推進	海外 情報セキュリティ管理体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報、機密情報の漏洩を防止するための各種対策の実施 	p.55	http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/risk/		
 コミュニティ参画および発展	社会や地域との共存共栄/健康・快適・環境分野での社会の発展への貢献	健康で快適な生活習慣づくりにつながる社会貢献プログラムの充実	国内 海外 口腔保健啓発活動の推進 ～予防歯科(セルフケアとプロフェッショナルケアの推奨)の推進、保健指導者向け、子どもへの教育・啓発など～	<ul style="list-style-type: none"> 「0才からの予防歯科」の推進 弘前大学COIとのオープンイノベーションの取り組み アジア各国・地域にて「全国小学生歯みがき大会」の実施 事業所周辺地域での歯みがき啓発活動の実施 幼稚園・保育所などでの歯みがき啓発活動の実施 	p.25-28 p.29-30 p.57	http://www.lion.co.jp/ja/csr/highlight/ http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/oral/ http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/overseas/
		健康で快適な生活習慣づくりにつながる社会貢献プログラムの充実	国内 海外 清潔衛生啓発活動の推進 ～子どもの手洗い・うがい啓発活動の推進など～	<ul style="list-style-type: none"> アジア各国・地域にて手洗い習慣普及活動の実施 事業所周辺地域での手洗い習慣普及活動の実施 幼稚園・保育所などでの手洗い習慣普及活動の実施 	p.58	http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/washing/ http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/overseas/

中期経営計画「LIVE計画」(2018~2020年)に

基本的な考え方

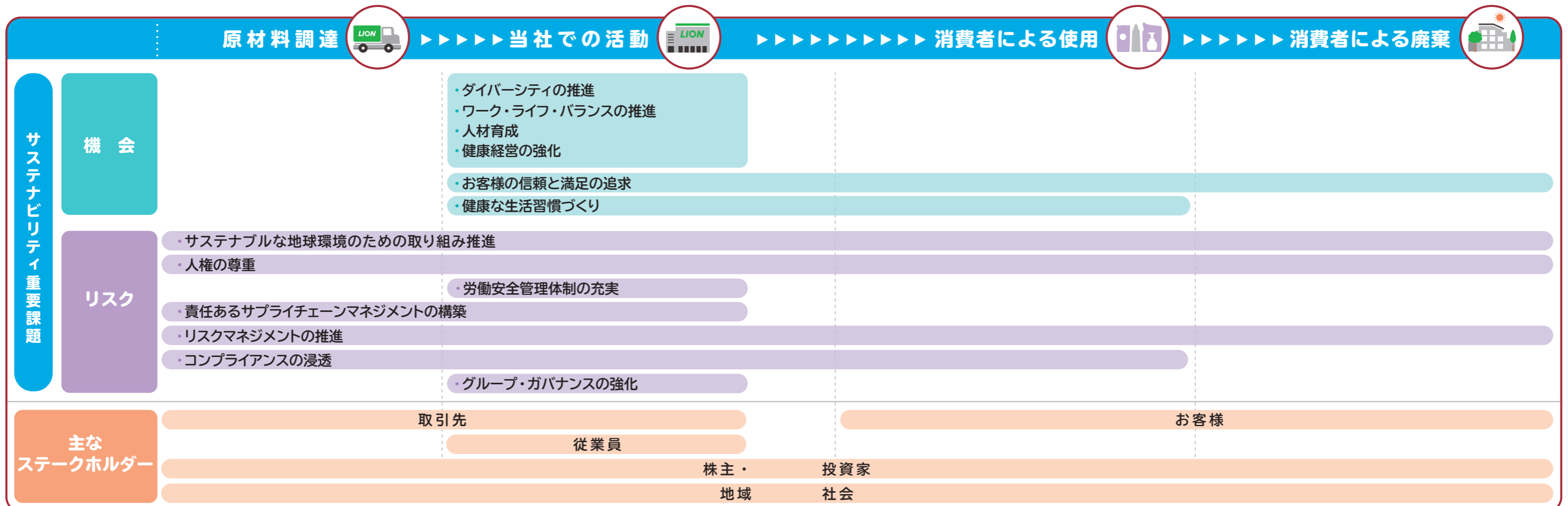
当社は、新経営ビジョン「次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーへ」の実現に向けて、中期経営計画「LIVE計画」を推進し、持続可能な社会の発展・事業の成長を目指したサステナブル経営を進めます。

この実現において、ライオングループが2020年までに取り組むべきサステナビリティ重要課題を特定しました。

リスク低減に向けた経営基盤としての重要な取り組み、およびオールヘルスケア・清潔衛生習慣などを通じた一人ひとりの「心と身体へのヘルスケア」の実現に挑戦していきます。



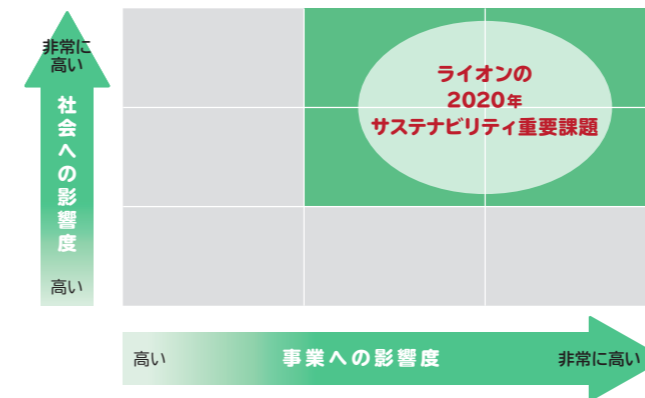
サプライチェーンにおけるサステナビリティ重要課題のリスクと機会



におけるサステナビリティ重要課題の特定

2020年サステナビリティ重要課題を右記のステップを通じて特定し、サプライチェーン全体およびステークホルダーを網羅的に勘案し、リスクと機会に層別しました。各課題の実行において取り組みの方向性を定め、目標およびKPIを設定しました。

サステナビリティ重要課題の考え方



サステナビリティ重要課題の特定ステップ

- Step 1 社会的 Issue の抽出**
ISO26000・SDGs・GRIスタンダード・国連グローバルコンパクト10原則をもとに社会的Issueを39項目抽出しました。
- Step 2 社会・事業への影響度を確認**
Step1のIssueを、それぞれ社会・事業への影響度の視点で、重要度評価を行い、関連部所、サステナビリティ担当役員、取締役でレビューを行いました。
- Step 3 重要課題の妥当性**
第三者機関の視点をふまえながら各項目の妥当性を検討し、見直しをはかりました。
- Step 4 執行役員会・取締役会にて承認**
特定した2020年サステナビリティ重要課題は、執行役員会・取締役会にて承認されました。

ライオンのサステナビリティ
2017年
組織統治
人権
労働慣行
環境
公正な事業慣行
消費者課題
コミュニティへの参画

2020年サステナビリティ重要課題・目標

中核主題		重要課題	2020年目標に向けた取り組みの方向性	2020年目標およびKPI	
S	環境	① サステナブルな地球環境のための取り組み推進	持続可能な社会と事業の発展の両立を目指して、生活者・地域社会とともに、地球環境保全活動を積極的に推進する	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境経営マネジメントの推進 <ul style="list-style-type: none"> 環境目標「Eco Vision 2020」の推進・達成（グローバル） 家庭での使用段階も含む製品ライフサイクル全体で環境負荷を最小化する「新環境目標 2030」の制定（グローバル） 化学物質の適正使用・管理の推進（グローバル） トップ環境監査・環境保全推進委員会における環境マネジメントの進捗状況の確認・見直しの実施（国内） 	
		② 人権の尊重	人権を尊重するグループ体制を構築する	<ul style="list-style-type: none"> ● グループ理念に基づく、人権尊重に向けた取り組みの強化 <ul style="list-style-type: none"> オールライオンの人権方針の策定（グローバル） ● 社内外通報・相談窓口の拡充 <ul style="list-style-type: none"> 心のホットラインの認知率 100%（国内） 	
		③ ダイバーシティの推進	多様な人材活用により、創造的な事業活動を拡大する	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性マネジメント層の活躍推進 <ul style="list-style-type: none"> 次世代マネジメントを牽引する女性従業員の育成（グローバル） 女性マネジメント層比率 20%（国内） 	
		④ ワーク・ライフ・バランスの推進	働き方改革により、従業員の躍動感を創出する	<ul style="list-style-type: none"> ● 「生産性の高い仕事と生活の調和」に向けたスマートワーク*の実現 <ul style="list-style-type: none"> 従業員意識行動調査の実施（国内） 有給休暇取得率 70%（国内） 	
		労働慣行	⑤ 人材育成	グローバルステークホルダーの期待に応える多様で豊かな思考を持つ人材の育成により、人的ダイナミズムを創出する	<ul style="list-style-type: none"> ● 自ら学び、行動する人材輩出のための人材開発体系の整備
			⑥ 労働安全管理体制の充実	グループ全体の労働安全衛生マネジメント体制を強化・徹底する	<ul style="list-style-type: none"> ● 労働安全・設備安全の徹底 <ul style="list-style-type: none"> 重大事故 0 件・重大災害 0 件（グローバル）
			⑦ 健康経営の強化	次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーに相応しいライオン流健康経営モデルを構築する	<ul style="list-style-type: none"> ● 従業員のヘルスケア習慣定着に向けた支援施策の拡充 <ul style="list-style-type: none"> 健康診断受診率 100%（国内） 歯科健診受診率 100%（国内） 年代別がん検診受診率 100%（国内）
		公正な事業慣行	⑧ 責任あるサプライチェーンマネジメントの構築	サプライチェーンで実効性の高いマネジメントを推進する	<ul style="list-style-type: none"> ● 先進的でサステナブルなサプライチェーンの整備 <ul style="list-style-type: none"> 調達に関するサプライヤー サステナビリティ セルフチェックの実施（グローバル） 調達に関するサプライヤー サステナビリティ セルフチェック実施率 100%（国内）
		消費者課題	⑨ お客様の信頼と満足の追求	グループ全体でお客様から信頼される企業活動を徹底し、顧客志向経営を進化させる	<ul style="list-style-type: none"> ● サプライチェーンを網羅した信頼性保証体制の強化 ● お客様対応品質強化によるお客様満足度の向上 ● システム構築と管理マネジメント強化による、セキュリティ体制の強靱化
		コミュニティ参画および発展	⑩ 健康な生活習慣づくり	人々の健康寿命の延伸・Well-Beingな毎日を目指して、オーラルヘルスケア・清潔衛生習慣など、健康な生活習慣づくりに貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業活動と連携した、予防歯科・手洗い習慣などのヘルスケア習慣定着に向けた活動の実施 ● 「地域との共生」・「従業員の参画」・「パートナーシップの強化」を基本とした社会課題解決への貢献
G	組織統治	⑪ リスクマネジメントの推進	グループ全体のリスクマネジメント体制を強化する	<ul style="list-style-type: none"> ● 網羅的・総括的なグループ全体のリスク管理推進 	
		⑫ コンプライアンスの浸透	グループ全体でコンプライアンス活動の実効性を強化する	<ul style="list-style-type: none"> ● コンプライアンス管理体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> 企業行動憲章・行動指針の周知拡大（グローバル） コンプライアンスに関する研修受講率 100%（国内） 	
		⑬ グループ・ガバナンスの強化	グループ全体のガバナンス強化に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ● 「コーポレート・ガバナンス基本方針」に則したグループ・ガバナンス体制の整備 	

* 生産性の向上を目指して、密度の高い仕事を進める働き方

0才からの予防歯科



背景

ライオンが大切にしている「予防歯科」

口腔の健康は、口の中のみにとどまらず、糖尿病、心疾患、認知症などの全身疾患への影響が大きいことが明らかになってきています。また、歯の残存数が少ないと、楽しく話すことや美味しく食べることが困難になり、毎日のQOL(Quality of Life: 生活の質)の低下につながります。つまり、健康な口腔状態を保持することは、心身ともに健康で生きていける寿命、すなわち「健康寿命」の延伸につながるのです。

図1 ライオンの予防歯科の考え方



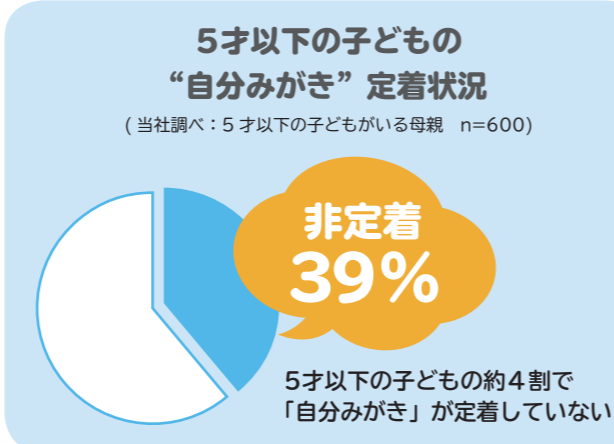
「予防歯科」とは、むし歯などになってから治療するのではなく、なる前の「予防」を大切に考える考え方です。歯科医院などでの「プロケア」と毎日の「セルフケア」の両方を継続して実践することが大切です。

子どもの歯みがきの課題

子どもの歯は、一般的に生後8カ月頃から乳歯が生え始め、6才頃から永久歯に生え変わっていきます。この間、子どもの口の中の状況は、成長とともに大きく変化します。子どもの歯を守るためには、歯のステージに合わせた正しい歯みがき方法を、保護者が一緒に実践しながら教え、そしてなるべく早い段階で「自分でみがく」習慣を定着させることが大切です。

しかし、子どもの歯みがきの実態調査を進めていく中で、「5才以下の歯みがき習慣非定着率」*は39%と、多くの子どもにとって習慣が定着していないことがわかりました(図2)。

図2 5才以下の歯みがき習慣定着率



*「定着」とは、子どもが自分みがきを毎日行っている状態のこと

この定着率の低さには、さまざまな要因が考えられますが、主に2つの大きな要因があると当社は考えました。

1つ目の要因は、そもそも「親子にとって、歯みがきの時間が楽しい時間ではない」ことです。子どもにとっては慣れないハブラシを口の中に入れられる苦痛な時間であり、また保護者にとっても、嫌がる子どもを追いかけ、半ば強制的に歯みがきをさせるストレスの多い時間となっていました。保護者は、無意識に怖い顔をしながら子どもとの歯みがきに向き合っていたり、それによりまたさらに子どもが歯みがきを嫌いになるという悪循環が生じていたのです。

2つ目の要因として、「保護者が子どもの歯みがきを済ませてしまう」ことがあげられます。子どもの歯みがき習慣を定着させるためには、なるべく早いうちから「自分でみがく」ことを教えることが大切ですが、歯みがき中のケガを不安に感じている保護者が多いことなどから(図3)、保護者が子どもの歯みがきを済ませてしまうケースが多いことがわかりました。このことから、子どもの歯みがき習慣定着のためには、より「安全性」を考慮した商品の開発が必要であると当社は考えました。

これらふまえて、保護者の不安を解消し、親子にとって歯みがきの時間を「嫌な時間」から「楽しい時間」へと変えることができず、商品の開発とコミュニケーションの双方に取り組んでいます。



図3 子どもの歯みがき中のケガに対する不安



ライオンの取り組み

【商品の開発】

0才からの予防歯科を実現する「安全ハンドル」

歯みがき中のケガは、子どもがハブラシをくわえたまま走り回るなどして転倒した際に、そのハブラシが口腔内外にあたることから起きていました。そこで当社は、子どもがハブラシを口にくわえたまま転倒しても、お口にかかる負担を低減できる「安全性」、かつしっかりと歯をみがける「清掃性」を両立した商品の開発を目指しました。

そこで当社が開発したのが、ハブラシのハンドルが横方向にぐにやりと曲がる「まがる・おれない安全ハンドル」です。万が一子どもが転倒した際も、口の中でハブラシが曲がることでその負担を軽減することができます。そして、縦方向には曲がりにくい構造にすることで、しっかりと歯をみがける清掃機能も併せ持つことが実現できました。

当社は、この安全ハンドルを『クリニカ Kid's ハブラシ』(0~2才用、3~5才用)に採用し、全面改良しました。



【コミュニケーション】

親子の歯みがきの時間に新しい価値を

歯みがきは、親子にとってストレスの多い時間となりがちですが、当社は親子の絆を深める大切な時間へ変えられると考えています。親子にとって歯みがきは、単に歯の汚れを落とすことが目的ではありません。一緒に歯をみがくことで、保護者から褒められて自信がついた

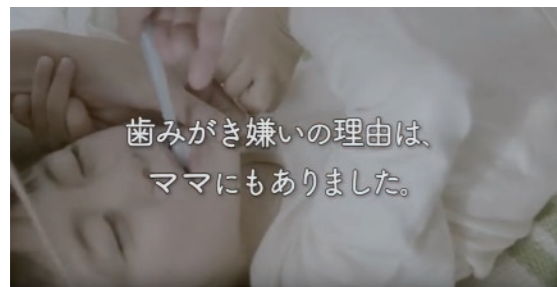
り、手や指を動かすことで運動機能が育つなど、子どもの心とからだの成長にとって大切な習慣であり、親子のコミュニケーションの場であると考えます。当社は、この考えを広く浸透させるため、多様な情報発信を行っています。

●共感の広がりをもとにした動画

子どもとの歯みがきに対する保護者の悩みとホンネに寄り添い、共感の広がりを目的とした動画を作成し発信しています。

この動画では、親子と一緒に歯みがきを楽しむことで、

その時間を親子の大切なコミュニケーションの場に変えられることを表現し、親子の歯みがきの新しい価値を伝えています。

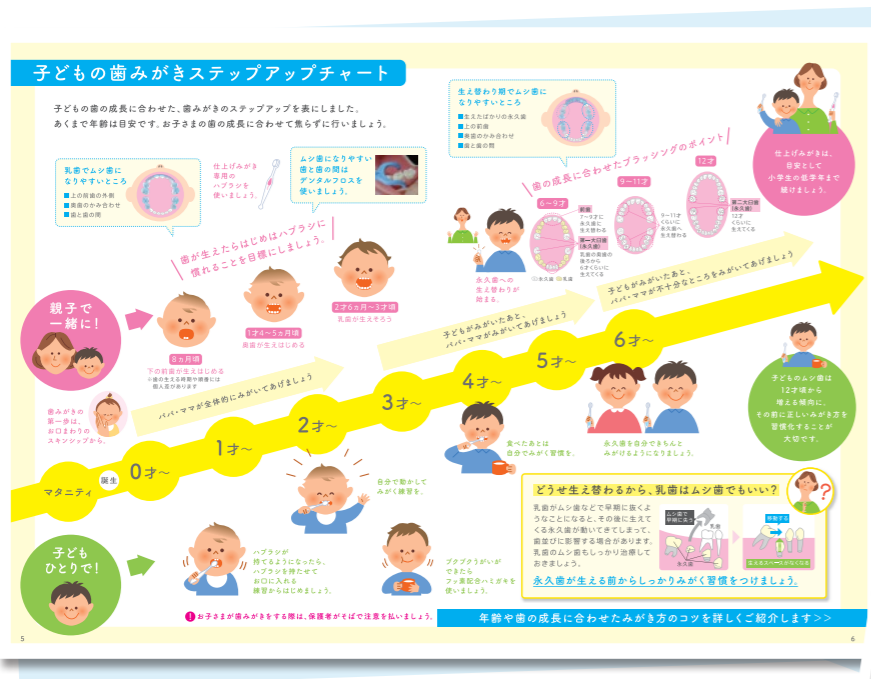


【共感の広がりを目的とした動画】
URL <http://clinica.lion.co.jp/hahahapark/douga/egao>

●「親子でやろう! 0才からの予防歯科ブック」

子どもの歯を守るためには、保護者自身が正しい知識と習慣を身につけることが重要です。当社は、子どもの予防歯科のステップアップを伝えるガイドブック「0才

からの予防歯科ブック」を全国の歯科医院や産婦人科で配布し、子どもの歯の成長とあわせた正しい歯みがき方法を伝えています。



予防歯科のステップアップ

●Webサイト「HA! HA! HA!パーク」

「親子の歯みがきの時間を、もっと楽しくしたい」という想いを込めて、子どもの予防歯科を応援するWebサイト「HA!HA!HA!パーク」を立ち上げました。ここでは、親子が正しい歯みがきの方法について学んだりしながら、クイズで遊んだり、動画を楽しむことができます。子どもの集中力を切らさぬよう特殊な音を取り入れた「親子で歯みがきソング」の動画を発信するなど、工夫をこらしています。

【HA!HA!HA!パーク】
URL <http://clinica.lion.co.jp/hahahapark/>



●従業員一人ひとりが「0才からの予防歯科」の考え方を普及

「0才からの予防歯科」を社会に浸透させるためには、まずは従業員一人ひとりが理解を深めることが大切であると考えています。2017年に、全社一斉に「予防歯科」学習を進め、従業員自身が「予防歯科実践者」となるべく取り組みました。また、子どものいる友人・知人に従業員が直接「親子で予防歯科紹介セット」を配布し、多くの人に「0才からの予防歯科」の重要性を伝えました（約10,000セット配布）。



「0才からの予防歯科」を通じてライオンが目指すこと

毎日のオーラルケアは、生涯の健康にもつながる大切な習慣であり、小さいころから身につけることが重要です。当社は、0才から大人、さらには孫を持つ年齢になるまで、あらゆるライフステージにおいて、オーラルヘルスケアを通じて人々の全身健康と健康寿命の延伸にお役に立ちたいと考えています。

今後全社一丸となり、予防歯科の啓発に取り組んでいきます。

開発者の声

オーラルケア事業部 青木 智弘

私は、『クリニカKid'sハブラシ』シリーズの製品開発・コミュニケーション開発を担当しています。2017年のシリーズ一新に当たっては、製品開発段階から発売後の普及活動に至るまで、社内メンバーに加えて、歯科医師をはじめ社外の方からも多くの協力をいただき開発を推進してきました。例えば、開発段階ではプロトタイプについて先生から何度もアドバイスをいただいたり、子どもを対象とした臨床試験も共同で実施しました。普及活動では「0才からの予防歯科」の大切さについてコメントをいただいたり、小児歯科学会大会での共同発表なども行いました。また、販売店様からもたくさんの共感をいただき、お客様の不安を解消する情報を店頭から発信するツールを積極的に設置していただきました。

このように、「製・販・学」一体となって「0才からの予防歯科」普及活動を行った結果、「子どもが自分から歯みがきするようになった」という声や、「お利口さんでした、えらい」と褒める声など、多くのご家庭での歯みがきが「親子の楽しいコミュニケーションの場」に変わりつつあることを実感しています。また、『クリニカKid'sハブラシ』シリーズの貢献も評価され、キッズデザイン賞や日本マザーズセレクション大賞にも選出いただきました。これからも、「0才からの予防歯科」の普及に尽力し、親子の楽しい歯みがき習慣の定着と、お子様の健やかな成長に貢献できるよう、取り組んでいきます。



オープンイノベーションの 取り組み



背景

ライオンのオープンイノベーション

少子高齢化・人口減少・資源の枯渇など膨大化する社会課題や、AIやIoTに象徴されるテクノロジーの劇的な進化などにより、社会そして人々のくらしは日々大きく変化しています。当社は、これらの変化に対応し、人々のヘルスケアを支える企業になるためには、「モノ」の提供のみにとどまらずお客様に新しい「価値」を提供

していくことに重きを置いています。その実現のためには、行政・企業など外部組織とのパートナーシップを強化し「オープンイノベーション」に取り組むことが鍵となります。その取り組みのひとつが、「革新的イノベーション創出プログラム COI STREAM」での共同研究です。

COI STREAM

COI(Center of Innovation) STREAM (以下 COI) とは、日本の経済再生を目指すべく、文部科学省・科学技術振興機構が2013年に開始した「革新的イノベーション創出プログラム」です。COIは、10年後のあるべき社会像を見据えて、企業や大学だけでは実現できない革新的なイノベーションを産学連携で実現するとともに、そのためのイノベーションプラットフォームを整備することを目的としています。

COIは、全国18の拠点*で、大学や企業が一体となって研究開発を推進しています。ライオンは、その拠点のひとつである国立大学法人弘前大学との共同研究に2015年より取り組んでいます。 *2018年2月現在



弘前大学 COI プログラム

弘前大学 COI は、真の社会イノベーションを実現する革新的「健やか力」創造拠点として、健康ビッグデータを活用した認知症や生活習慣病など病気の予兆発見の開発や、予防法を開発する研究とビジネス化に取り組んでいます。この研究の背景には、青森県の「最短命県」という健康課題があります。青森県は、高齢化に加え、加齢性疾患・生活習慣病のリスクが高く、都道府県別平均寿命ランキングでは、男性・女性ともに平均寿命が日本最下位の状態が長年続いています。

弘前大学は、青森県の「短命県返上」を目標に掲げ、弘前市の岩木地区の住民を対象に、大規模住民健康調査「岩木健康増進プロジェクト健診」(岩木健診)を

実施しています。岩木健診には毎年1,000名前後の住民が参加し、のべ2万名以上の膨大な健康ビッグデータ(約2,000項目)が蓄積されています。弘前大学 COI プロジェクトでは、この健康ビッグデータを用いた研究開発・ビジネス化に取り組み、短命県のデータだからこそ導き出せる健康イノベーションを目指しています。ライオンはこのプログラムに参画して、主に「口腔」および「睡眠」の研究に取り組み、生活習慣、体質、全身健康との関連を明らかにし、人々の健康寿命の延伸につながるソリューションの開発・普及を目指しています。

ライオンの取り組み

口腔内検査システムの設計

弘前大学 COI の一環として、メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム、歯科口腔、うつ病・認知症における健康意識向上および生活行動変容をはかる新たな健診システムを開発しています。当社は、このうちの歯科口腔分野を担当し、独自に開発した多項目唾液検査システム(SMT)・受診者が歯や歯ぐきの様子を自身で確認できる口腔内カメラ・問診アンケートから成る口腔健診プログラムにより受診者の意識・行動変容を検証しています。

多くの企業・自治体の集団健診では、時間や費用、歯科医師の不足などの問題により、歯科項目の健診が実施されないことが多いのが現状です。当社はこの取り組みを通じて、信頼性が高く、かつ簡便な口腔内検査システムを実現させ、将来的にはより手軽に口腔健診を受診できるシステムの構築を目指しています。

当社が設計した口腔内検査システム



多項目唾液検査システム

(SMT: Salivary Multi Test) とは?

歯と歯ぐきの健康および口内の清潔度に関連する多項目の唾液因子を5分間で測定できる新しいシステムです。

弘前大学に「オーラルヘルスケア学講座」を開設

口腔および睡眠と、全身の健康状態との関係を研究することを目的として、弘前大学大学院医学研究科内に寄附講座「オーラルヘルスケア学講座」を開設しました。近年、口腔または睡眠の状態が全身健康に関連があることや、オーラルケアが生活習慣病の予防につながる

可能性が指摘されています。本講座では青森県医師会や青森県歯科医師会とも連携し、科学的エビデンスを追求するとともに、研究成果に基づいた商品・サービスの創出を目指します。

担当者の声

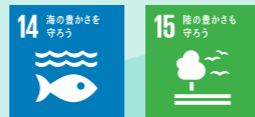
研究開発本部薬品研究所 翠川 辰行

2016年4月から約2年間弘前大学に常駐しました。私は健康ビッグデータから、睡眠変動の原因となる生活習慣や体質、および睡眠と健康との関連を明らかにすべく解析に取り組んでいます。また、今別町やむつ市など青森県内各地を訪問し、地域・職域・学校における健康リテラシー*の向上に向けた健康教育活動にも参加しました。社会の仕組みを変えないと健康づくりは達成できないという信念のもと、大学の先生・住民の方々・参画企業・行政と、まさに産官学民が一体となり、前例のない取り組みに悩みながらも本気で挑む姿に、日々刺激を受けています。私自身も、この弘前大学 COI から新たなヘルスケア産業の流れを生み出す現場に関われる幸せに感謝しつつ、新たなヘルスケア事業の社会実装につながるデータ解析を推進しています。



*健康に関する正しい知識と実践方法の理解

事業所での 生物多様性保全活動



ライオンの生物多様性保全の考え方

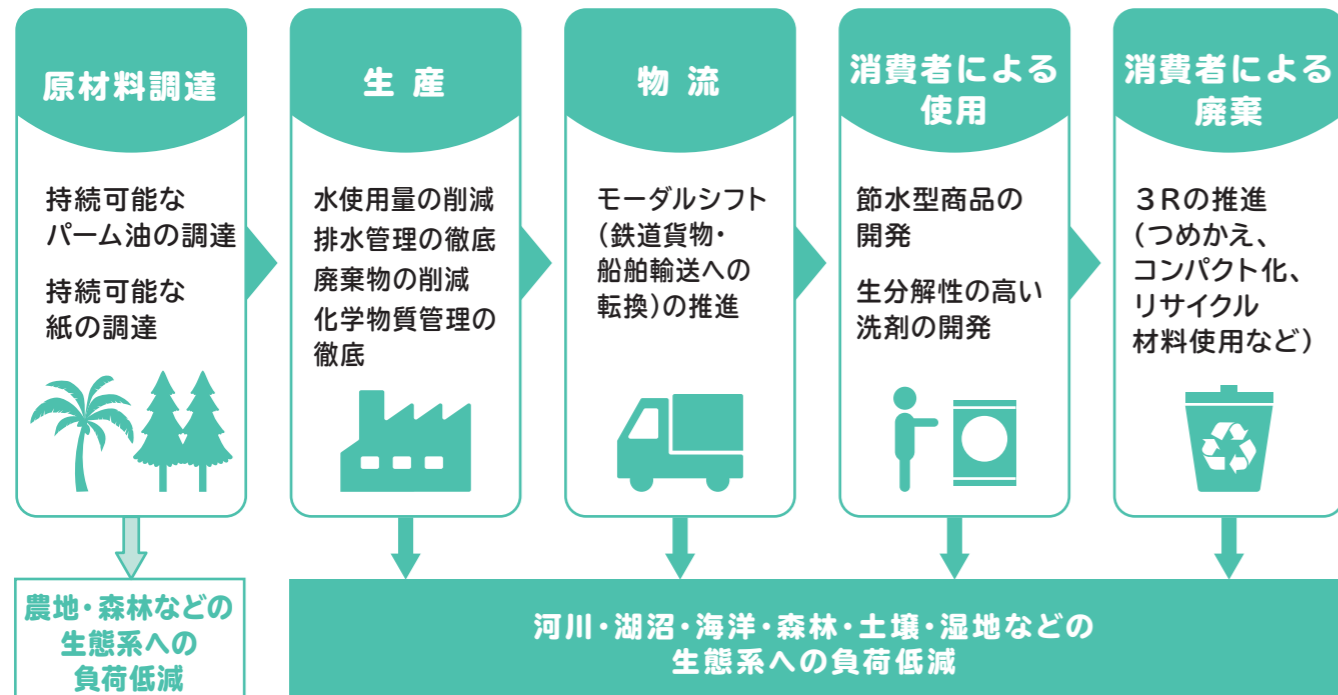
すべての生きものは、さまざまな関係で複雑につながり合い、バランスを取りながら生態系という仕組みを形づくって生きています。私たち人類もこのシステムを構成する仲間として、生物多様性の恩恵を受けながら、日々の生活や事業活動を営んでいます。

ライオンは、工場建設をはじめとする土地利用や、天然油脂などの原料の調達、事業所からの化学物質の排出・排水、事業活動およびお客様による商品使用によって排出される温室効果ガス、お客様による商品使用後の容器

の廃棄に至るまで、サプライチェーンの各段階で、直接または間接的に生物多様性へ影響を与えています。

このため、自然の恵みをいただきながら、毎日の暮らしに役立つさまざまな商品を作り続けるライオンは、生物多様性による恩恵を次の世代でも持続的に受けられるよう守っていくことが重要な課題と考え、サプライチェーンの各段階で生物多様性に配慮した取り組みを行っています。➡ [関連情報 p.47](#)

サプライチェーン各段階での取り組み



当社はこれまで、自然の恵みを持続的に享受するため、環境への負荷を減らすなど、生物多様性に与える影響をゼロに近づける取り組みに力を入れてきました。

自然には地域ごとに個性があり、それぞれ地域の特性

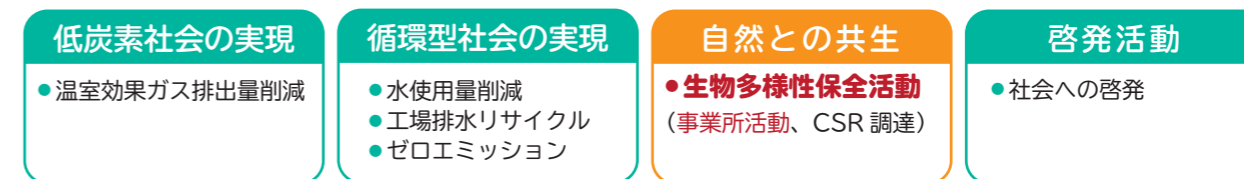
に応じた生物多様性の保全活動と持続可能な利用が重要と考えています。近年では、工場やオフィスが立地する地域の生物多様性を積極的に守るとともに、再生・復元する活動にも重きを置いています。

各事業所での生物多様性保全活動 ～従業員の意識向上を目指して～

事業を通じて生物多様性保全活動に取り組むうえで、まずは従業員一人ひとりが意識を高めることが大切と考えています。そのため、環境目標「Eco Vision 2020」にて、「2020年までにオフィスを含む全事業所で生物多様性保全活動を実施すること」を目標として

定め、従業員一人ひとりが生物多様性保全活動に参画することを目指しています。各事業所において、それぞれの地域の課題に対応したテーマを設定し、地域と連携した持続的な活動を推進しています。

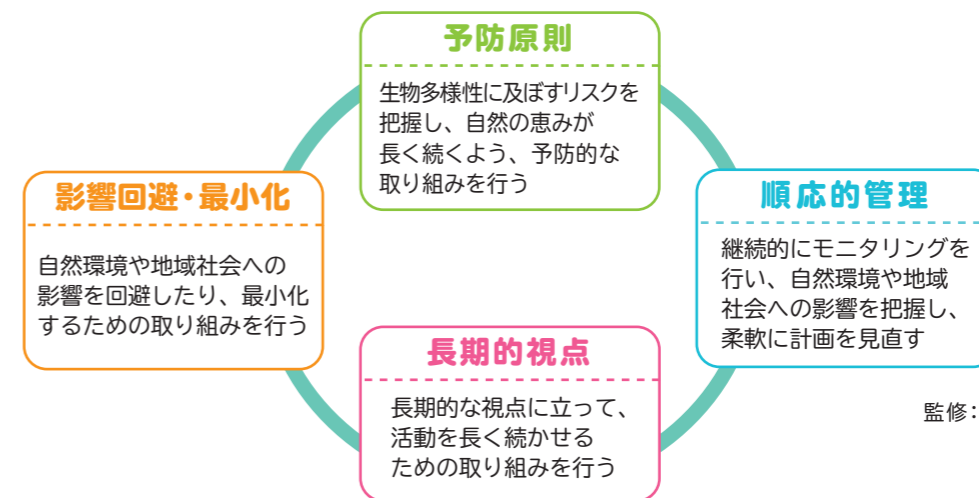
環境目標「Eco Vision 2020」（2013年策定）



目標 2020年までにオフィスを含む全事業所で生物多様性保全活動を実施

事業所での生物多様性保全活動の基本原則

事業所での生物多様性保全活動を進めるにあたっては、環境省「生物多様性民間参画ガイドライン」をもとに、次の4つの原則を重要と考えています。



次ページ (p.33-34) にて、各事業所で取り組んでいる生物多様性保全活動を紹介します。活動の選定においては次のような視点を考慮しています。

- ・排水や取水などを通して工場とつながる流域の河川や湖沼、その下流の海浜などで生物がくらしやすい環境を整える
- ・姿を消しつつある生物の生息環境を整えたり、飼育・繁殖をさせた後に生息場所に戻す
- ・周辺地域から失われた自然を事業所の敷地に復元し、生物がくらすためのビオトープとして維持管理する
- ・山林の手入れを進めるとともに生物を定期的に調べ、生物多様性について皆に伝える場として活用する
- ・地域住民、社外団体、自治体などのステークホルダーと協働で取り組む

各事業所での取り組み



兵庫県(明石市)

●明石工場

エノキビオトープ整備活動 (在来種オオムラサキなどの保護)



磯部 恭一さん

2013年に「エコウィングあかし」に入会し、明石市の環境基本計画推進に協力するとともに、工場内で、里山林で見られた在来種を保護・育成する「エノキビオトープ」づくりを行っています。兵庫県立丹波の森公園から譲り受けたオオムラサキの幼虫などを飼育。成虫となったオオムラサキを丹波の森公園のクヌギの森に放蝶する「オオムラサキ放蝶会」にも参加しています。

三重県(四日市市)

●ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ(株)四日市工場

吉崎海岸の保全活動 (外来生物駆除、海岸清掃)



後藤 英次さん

毎月第1日曜日に地元NPO団体主催で開催される「四日市市・吉崎海岸の清掃と外来種駆除」に2015年から参加しています。工場社員参加率が年々増加しています。今後も工場全員参加を目指し、薄いピンク色の「ハマビルガオ」が咲く吉崎海岸を守っていきます。

大阪府(堺市)

●大阪工場

アカウミガメ保護活動

山崎 貴久さん



2010年より開始したアカウミガメの保護活動は今年で8年目となります。当初の竹柵から今日の金属柵に至るまでさまざまな試行錯誤を経て、2016年ようやくタヌキによる食害0件を達成することが出来ました。多くのウミガメが産卵に訪れ、子ガメが巣立って行き、また産卵に戻って来られるように、今後も食害防止や砂浜清掃を継続していきます。

大阪府(大阪市)

●大阪オフィス

のだふじ保護活動への協力



藤の原種とされる「のだふじ」は、大阪オフィスが2017年まで所在していた福島区が発祥の地とされています。そこで大阪オフィスでは、消滅しかかった「のだふじ」の保護育成を推進している団体「大阪福島ライオンズクラブ」などと協力しながら、生物多様性の普及啓発活動に取り組んでいます。

香川県(坂出市)

●ライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所

トンボビオトープの整備活動 (絶滅危惧Ⅱ類マイコアカネの繁殖)

河井 公二さん



2012年、事業所内にトンボ池を造成し、香川県の希少種トンボ(マイコアカネ)の保護活動を開始。2015年にはトンボ池周辺縁地でマイコアカネの産卵、個体が観察され、トンボの誘致と生態系を確立しました。今後はマイコアカネの生態系保全はもとより一種でも多くのトンボを誘致します。また、生態系の保全だけでなく生態系を活用したトンボ池での自然観察会を近隣から県下に広げて子どもたちに自然の大切さを伝えていきます。

福島県(矢吹町)

●ライオンパッケージング(株)福島工場

里山の整備活動「やすらぎの里山 福のしま」



宮本 明美さん

2013年から工場北側の里山の環境整備とおきな草の繁殖活動を開始。主な活動は、里山の再生活動、看板設置、従業員によるフォトコンテストなどです。里山の名称は従業員公募により、「やすらぎの里山 福のしま」と親しみのある名称になりました。今後もさまざまな情報発信をしながら、従業員一丸となり3つのエリア(従業員の憩い・保護・原生型)をきちんと確保し、人と生物の共存共栄をはかれる環境を整えます。

茨城県(神栖市)

●ライオンケミカル(株)ファインケミカル事業所

鹿島灘沿岸の松林の再生活動



丸本 陽子さん

海浜生態系の再生を目的に、鹿島灘沿岸の砂浜保全や保安林である松林の復元に取り組む「白砂青松プロジェクト」活動に参加。全従業員が松の種を植え付け、それぞれに自分の名札をつけて「My 苗」を慈しみながら工場内で育てています。2年後に、鹿島灘沿岸に植樹します。

愛知県(名古屋市)

●名古屋オフィス

名古屋城外堀のヒメボタル保護活動への協力



天池 早苗さん

名古屋城外堀にあるライオン像周辺に生息するヒメボタルを保護するため、2014年から「名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち」を支援しています。同団体とともに、清掃活動、ホタル鑑賞会、講演会、パンフレット作成などを行いながら、今後もヒメボタルの保護活動を続けていきます。

千葉県(市原市)

●千葉工場

里山ビオトープ整備活動「レオトープ」



篠崎 友美さん

工場内に従業員が手作りでビオトープ(社内呼称:レオトープ)を造成。水辺に生息する植物や生きものたちがたくさん確認できるようになりました。初夏には古代の大賀蓮も咲きます。秋には園内に造成した田んぼに黄金の稲穂が実り、工場見学の皆様にも楽しんでいただいています。

神奈川県(小田原市)

●小田原工場

酒匂川水系のメダカの繁殖、ホタルの育成



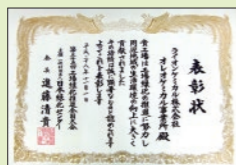
辰巳 修さん
長島 克己さん
和田 悦子さん

絶滅危惧種「酒匂川水系のメダカ」の里親制度に参加。工場内の池で育成し、工場見学の皆様にもご覧いただいています。2017年は小田原市へ約560匹を返還しました。また、工場の敷地内でホタルが自生できる自然環境づくりにも取り組み、毎年近隣の方々と一緒にホタル鑑賞をしています。

社外評価

ライオンの生物多様性保全活動は社外から高く評価されています。

●ライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所のトンボビオトープ整備活動



「日本緑化センター
会長賞」受賞
(2016年11月)

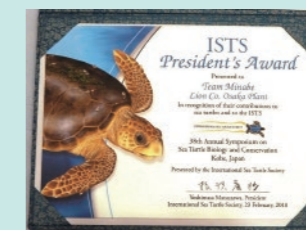
●大阪工場のアカウミガメ保護活動



生物多様性
アクション大賞2017
「入賞」受賞
(2017年12月)



いきものにぎわい企業
活動コンテスト
「審査委員特別賞」受賞
(2017年12月)



国際ウミガメ学会
「President's Award」受賞
(「チームみなべ」*として共同受賞)
(2018年2月)

*ライオン大阪工場・後藤 清氏・みなべウミガメ研究班・青年クラブみなべの4者

組織統治

基本的な考え方

当社は、経営の透明性を高め、監督機能と意思決定の迅速化をはかり、コンプライアンスを確保することを、コーポレート・ガバナンス上の最重要課題と位置

づけており、コーポレート・ガバナンス体制の強化・充実を推進することにより、企業価値の向上を目指しています。

コーポレート・ガバナンス体制

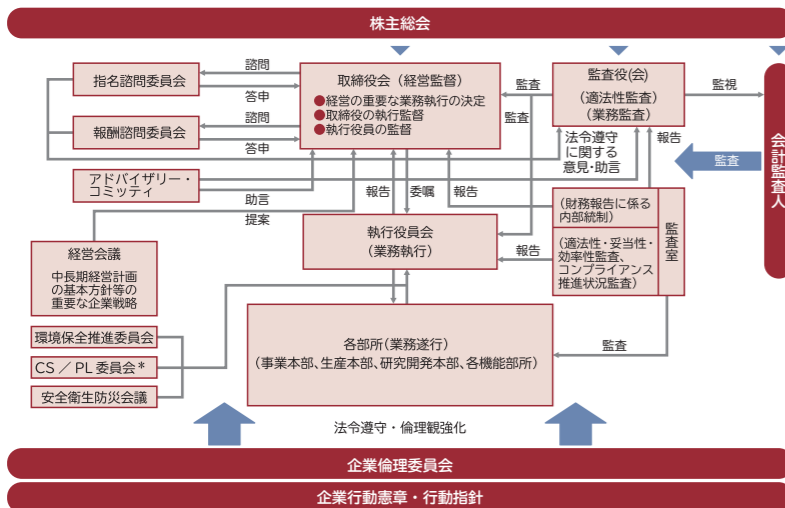
当社は、監査役制度のもとで経営の監督を行っていますが、2004年3月より執行役員制を導入し、それまで取締役会が担ってきた機能を区分し、取締役会は「経営の意思決定および監督機能」を担い、執行役員会が「業務執行機能」を担うこととしました。

取締役会については、その活性化および機動性の向上をはかるため、取締役員数を削減しています(執行役員制導入前19名、現在9名)。また、経営の透明性を高め、コーポレート・ガバナンスの一層の充実をはか

るため、独立役員としての要件も満たす社外役員5名(社外取締役3名および社外監査役2名)を中心とした指名諮問委員会および報酬諮問委員会を設置するとともに、代表取締役社長と社外役員全員との定期的(原則として月1回)な情報交換も実施し経営の監督・監視機能の充実に努めています。

さらに、社外有識者の評価・意見を経営に反映させるための「アドバイザリー・コミッティ」(旧経営評価委員会)を2003年10月より設置しています。

●コーポレート・ガバナンス体制(2018年4月1日現在)



【コーポレート・ガバナンスに関する報告書】

URL http://www.lion.co.jp/ja/company/about/pdf/abo_gov.pdf

*CS/PL委員会

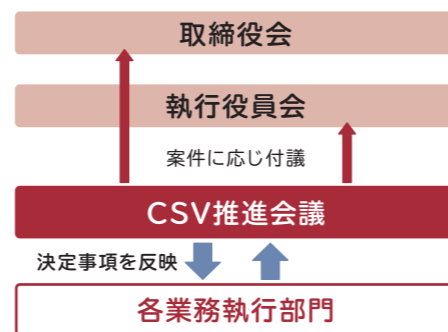
CS: Customer Satisfaction (お客様満足)
PL: Product Liability (製造物責任)
品質保証活動を推進するための部所横断型の委員会。

CSV推進会議の新設

当社はサステナブルな経営の実現に向けてCSVを推進していくために、2018年1月より社長を議長とし、取締役・執行役員を含むメンバーで構成される「CSV推進会議」を新設しました。

CSV推進会議においては社会価値・事業価値双方の創出につながる中長期のCSV戦略の策定および当社におけるサステナビリティに関する重要事項についての審議を行うとともに、実行状況のモニタリングを行います。

CSV推進会議で決定した内容は、必要に応じて取締役会・執行役員会に付議され、各業務執行部門の事業活動に反映されます。



リスクマネジメントの推進

当社では、お客様に対して、安心・安全な商品を継続して提供するために、リスク統括管理担当役員を任命し、当社グループ全体のリスクを網羅的・総括的に管理しています。環境、品質責任、事故・災害に関するリスクについては、各種会議体を通じて対応策を検討し、必要に応じて執行役員会で審議し、リスク管理を行っています。各工場ではISO14001の認証を受け、品質管理および環境保全に積極的に取り組んでいます。天災・事故発生などによる物理的緊急事態が発生した場合は、緊急事態処理システムに従い、発生事実を社長、監査役などへ報告するとともに、対応状況について執行役員会・取締役会へ報告しています。

また、事業を行っていく上で起こりうるさまざまなリスクのうち、特に投資者の判断に重要な影響をおよぼす可能性のある主な事項として、以下の5点を挙げ、有価証券報告書に明示して公開しています。

- 1.製品の品質評価
- 2.原材料価格の変動
- 3.為替レートの変動
- 4.重大な訴訟等
- 5.地震等自然災害

●事業継続計画(BCP)

当社は、大地震や感染症の蔓延(パンデミック)などが発生した場合でも、お客様に商品をお届けできるよう、被害の最小化と業務の継続をはかるための体制づくりを推進しています。

地震災害が発生した場合は、「地震災害対策マニュアル」、新型インフルエンザ等感染症によるパンデミックの発生が予見される場合には「新型インフルエンザ等感染症対策マニュアル」にしたがって対策本部を設置し、対応に当たります。災害の規模、被災状況によってBCP発動の是非を判断しますが、BCPが発動された場合は当事業のうち、一般消費財の供給を最優先とした体制をとることとしています。

経営に重大な影響を与えるリスクについては、対応状況を取りまとめ、毎年執行役員会に報告しています。

内部統制システムの整備

当社は、会社法および会社法施行規則に基づき、当社グループ各社の業務の適正を確保するための体制を整備しています。また、金融商品取引法に基づく「財務報告に係る内部統制の評価及び監査制度」については、全社レベル・業務プロセスレベルの統制の整備を行っています。内部統制の有効性に関する評価は監査室が行い、結果を社長および監査役に報告するとともに、取締役会でも定期的に報告しています。2017年は評価の結果、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断し、2018年3月に有価証券報告書とともに内部統制報告書を内閣総理大臣に提出しました。

●内部監査

健全な業務活動基盤の確立に向けて、監査室が各部署の業務推進状況について、適法性、妥当性、効率性、リスクマネジメントの視点から監査を行っています。監査結果ならびに改善状況については、監査の都度、社長へ報告し、年2回、監査結果を総括し取締役会で報告することで、監査業務のPDCA管理を行っています。また、執行役員会にて報告することで、業務執行部門との情報の共有化をはかっています。

【有価証券報告書】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/ir/library/yuhou/>

国連グローバル・コンパクト

当社が2009年から参加する国連グローバル・コンパクト(UNGC)は、「人権の保護」、「不当な労働の排除」、「環境への対応」、そして「腐敗の防止」の4つの領域に関わる10の原則の実現を目指す企業・団体の自発的な取り組みです。グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)にも加入し、参加企業のCSR活動推進を目的とした分科会活動にも定期的に参加しています。

【国連グローバル・コンパクト】URL <https://www.unglobalcompact.org/>
【グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン】URL <http://uncjcn.org/>



コンプライアンスの浸透

当社グループでは、企業倫理担当役員を委員長とする企業倫理委員会のもとで、コンプライアンス意識の啓発を積極的に行っています。コンプライアンスの基盤となる「ライオン企業行動憲章 (p.3)」は、全従業員に冊子で配付し、ホームページ上で社外にも公開しています。また、毎年のプログラムに沿って、e-ラーニングなどの教育を定期的の実施しています。

2017年に実施したe-ラーニングでは、「ライオン企業行動憲章」の閲読と同意に加えて、品質保証の基礎、就労管理の基礎、ソーシャルメディアのリスク、情報セキュリティ、情報管理体制、職場のハラスメント、インサイダー取引の基礎知識について学習しました。

●コンプライアンス意識調査アンケート

当社は、国内全従業員を対象に毎年、「コンプライアンス意識調査アンケート」を実施しており、今回で14回目となります。アンケート結果を経営層に報告するとともに各職場へフィードバックし、コンプライアンス体制の維持・強化につなげています。

2017年は、前年に引き続きアンケートの回答対象にパート社員も含めて実施しました。アンケートを通じて、職場環境の問題などの意見が寄せられました。(対象4,492名のうち約97%の従業員が回答)

コンプライアンス意識調査アンケート

ライオン企業行動憲章の遵守状況、前年のコンプライアンス意識調査結果のフィードバックの有無、ホットラインの認知などを無記名で回答するアンケート。

●ホットラインの周知

当社は、社内・社外の通報制度「AL (オールライオン) 心のホットライン」を設置し、派遣社員を含む全従業員への周知をはかっています。2017年の社員認知率は98%でした。

2017年は18件の相談・通報がありましたが、重大な不正行為と判断される事案はなく、すべての事案に適切に対応し、收拾しました。

[AL心のホットライン]

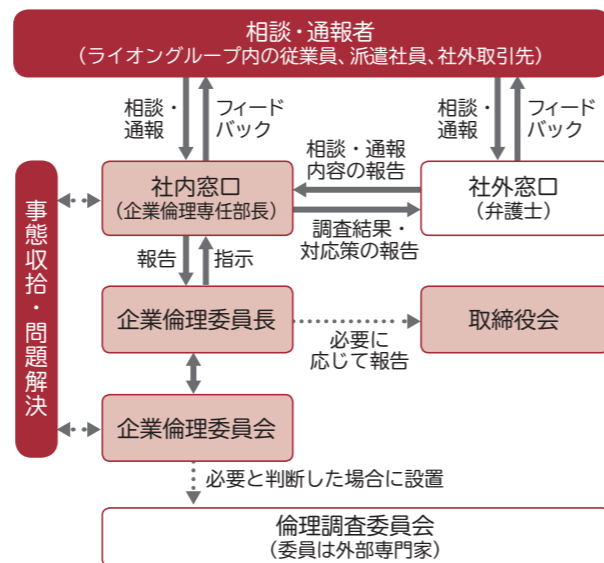
URL <http://www.lion.co.jp/ja/company/compliance/index.php>

海外グループ会社におけるコンプライアンスへの取り組み
グループ全体でのコンプライアンスの浸透を目指し、海外グループ会社においても取り組みを進めています。オフィス・従業員ハンドブック・イントラネットを通じて「ライオン企業行動憲章」の浸透をはかるほか、腐敗防止に向けた取り組み強化など、海外での取り組みの一部をWebサイトに紹介しています。

[コンプライアンスの浸透]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/compliance/>

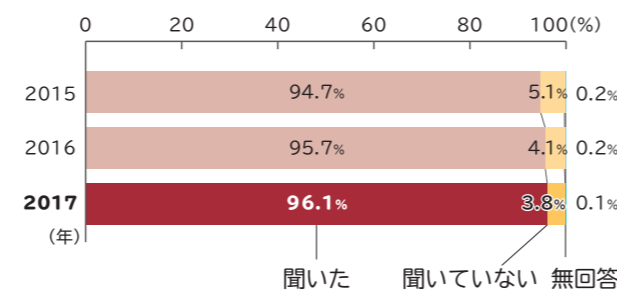
●「AL心のホットライン」の仕組み



●「AL心のホットライン」への相談・通報内容(2017年)

ハラスメント的行為	9件
人事・労務管理上の問題	5件
その他	4件

●アンケート結果のフィードバックを聞いた従業員の割合



Webサイトのご紹介

サステナビリティ マネジメント
URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/management/>



人権

基本的な考え方

当社は「ライオン企業行動憲章」において、「人権の尊重」、「全ての法律、国際ルール及びその精神の遵守」を定め、「行動指針」においては、児童労働や強制労働を認めないこと、機会均等な雇用と就業者に

対する公正な処遇を行うことや、購入先における人権についても示しています。また、2009年に国連グローバル・コンパクトの10原則の支持を表明しています。

人権に関する方針の周知

当社は「ライオン企業行動憲章」およびそれに基づく「行動指針」において、人権尊重に関する方針を示しています。役員、グループ会社社員、従業員、派遣社員に対する企業行動憲章の周知については、年1回、e-

ラーニング、あるいは文書による企業行動憲章の閲読と同意を行っています。また、企業行動憲章の浸透・定着状況を確認するアンケートも年1回行っています。

人権デューディリジェンス

当社は原材料の調達から消費者による使用に至るまで当社の活動の人権に対する影響を把握し、報告、是正、フォローする仕組みの充実をはかっています。

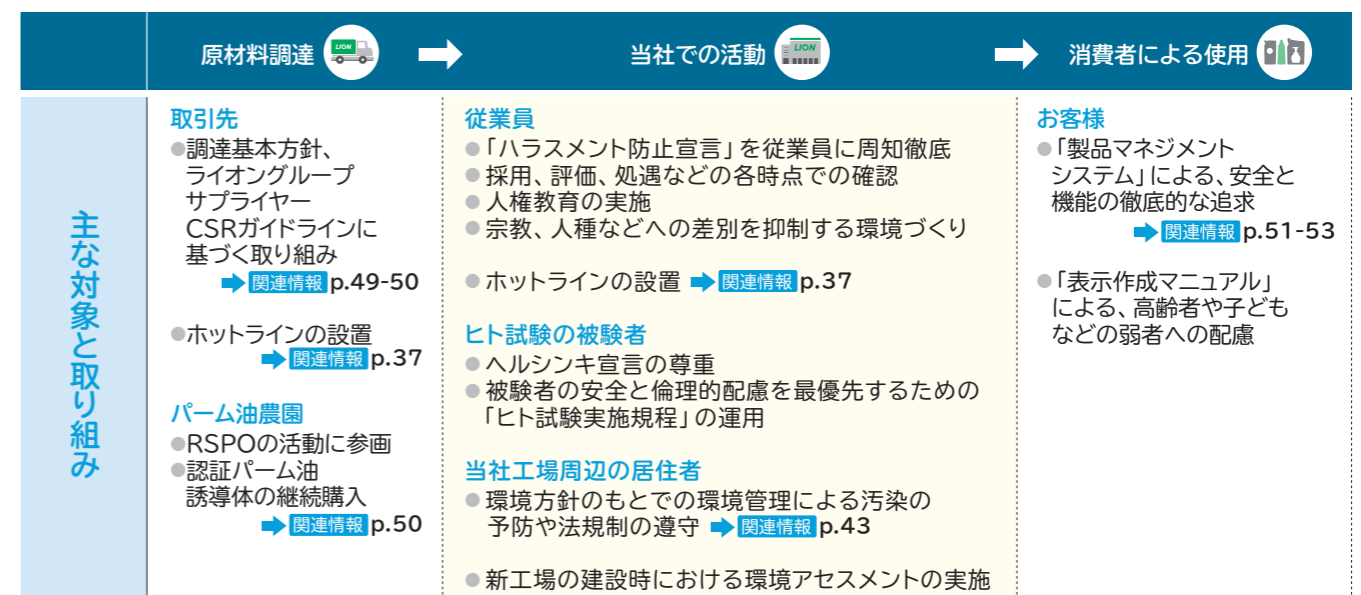
Webサイトのご紹介

[人権の尊重]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/humanrights/duediligence/>



●当社の人権に対する取り組みの全体像



基本的な考え方

当社は「ライオン企業行動憲章」において、「就業者の多様性と人格・個性を尊重した公正な処遇の実践」と「就業者のゆとりと豊かさを実現するための安全で働きやすい環境の確保」を定めています。また、「行動指針」においては、「ワーク・ライフ・バランス

の推進による柔軟な働き方ができるような労働環境の整備」や「優れた専門技術や知識の体得に努め、かつ高い目標に挑戦する就業者に対する最大限の手助け」、「就業者や就業者の代表との誠実な対話と協議」を示しています。

良好な労使関係のために

当社は、相互の理解と信頼に基づく健全な労使関係の推進と、会社ならびに労働組合の社会的使命と責任の自覚のもとで、企業行動憲章を遵守し、相協力して事業の発展と組合員の労働条件の維持向上をはかることを目的として、労働組合と労働協約を締結しています。

その中で、会社は組合員の正当な組合活動の自由を認め、これを理由として不利益な取り扱いをしないことや、会社と組合は、対等な立場で協議するために、労使協議会を設け、定期開催することを定めています。

当社ではユニオン・ショップ制を採用し、労使協議会での経営状況の報告や職場環境についての意見交換など

労使で積極的に活動し、労使関係の維持・向上に努めています。また、海外グループ会社においても、労働組合・労使協議会などを通じて、よりよい職場環境の実現に向けて従業員と経営のコミュニケーションを積極的にはかり、健全な労使関係の構築・維持に努めています。

ユニオン・ショップ制

労働者が会社に雇用された際に、特定の労働組合の組合員になることが条件である労働協約。

人材育成

●機能別研修体系の整備

機能別研修においては、各職種における専門性強化に向けて施策を用意しています。マーケティング部門において、「マーケティング学習プログラム」を2014年より継続的に実施しています。これまで各部門で活躍している人材からマーケティング部門の要員を配置してきましたが、さらなる強化に向けて、努力と学習を継続する熱意のある人材を発掘するプログラムを設計し運用しています。本プログラムでは、マーケティングの実務的な理論習得や消費者インサイト、競争戦略をふまえた企画設計の体系的な学習機会の提供に加えて、キャリアパスとも連動したマーケティング人材の育成を行っています。

●ライオンチャレンジカップイノベーション

2017年は、社員自らが、経営陣に「ライオンにとって夢のある提案」を伝えることができる「第3回 LION CHALLENGE CUP-innovation」を開催しました。この大会では、社員の自己啓発意識を高め、さらなる自己成長と革新を突き詰めることにより、未来に向け全社の大きな成長につなげる「革新的な提案」を導き出すことを目的としています。予選を突破したテーマは本選にて経営陣に提案内容をプレゼンテーションします。

2017年は、24件のエントリーのうち、ゴールド賞1チーム、ブロンズ賞2チームが選出されました。ゴールド賞、シルバー賞を受賞したテーマにおいては、関連部署にて実現可能性を検討する対象になります。

多様な人材の活用

当社では、ビジネス環境の変化に迅速に対応する必要性から、「ダイバーシティ（多様な人材の活躍推進）」に取り組んでいます。

当社は、さまざまな人材が、より一層活躍するための人事施策を社員参加により企画・立案してきました。現在は人事部内に担当チームを設置しダイバーシティ推進に向けたさまざまな取り組みを行っています。

●社内の仕事を知る機会の提供 (キャリアフォーラム)

若手のキャリア開発を支援する目的で、将来のキャリア形成を描くヒントとなるよう、2012年よりキャリアフォーラムを年1回実施しています。これまで財務・法務・マーケティング・広報・サステナビリティ・営業・国際部門などの業務紹介を実施しました。

6回目の2017年は社内の従業員褒賞の事案をもとに、受賞者が経験や業務にかけける想いを語り、参加者が自らの業務と照らして新たな気持ちで挑戦する機会を提供しました。



キャリアフォーラムの様子

●地域限定社員制度

臨時雇用者などの中で貢献度が高い優秀な人材の確保や正社員の多様な働き方の実現を目指し、2013年より地域限定社員制度を導入しています。全国を7ブロックに分けて勤務地をブロック内に留め、処遇や福利厚生は正社員に準じた内容になっています。

登用者数

2015年	2016年	2017年	2018年(4月)
9名	9名	5名	16名

●女性活躍推進の取り組み

当社は、さらなる企業価値向上のためには、女性の活躍が不可欠であると認識しており、積極的に女性活躍推進施策に取り組んでいます。

2016年に国会で成立した、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律「女性活躍推進法」に基づき、当社においても、長期的に女性従業員が活躍できるよう、育児関連制度の拡充や仕事と育児の両立支援策の実施などを行っています。その結果、ライオン単体（出向者含む）の平均勤続年数は、男性が20.4年に対して、女性は18.0年と長期的に活躍しています。また、今後の取り組みにより2020年には国内での女性マネジメント層*比率20%以上を目指しています。（目標を15%から引き上げました。）

女性活躍推進法に基づく当社の行動計画と女性の活躍推進宣言は、厚生労働省委託事業「ポジティブ・アクション（女性活躍推進）情報ポータルサイト」に掲載されています。

[女性の活躍推進宣言]

URL http://www.positiveaction.jp/declaration/add/search_detail/?id=1664

[当社の女性活躍推進法に基づく行動計画]

URL http://www.positiveaction.jp/pa/search/detail.php?company_id=1620

*管理的地位を担う人材で、役職的には係長以上に相当。

●障がい者の積極的な活用

障がいの有無の区別なく、個人の能力を発揮するため、働く環境の改善や職場全体でサポートする風土を醸成し、積極的な活用を進めています。

2016年3月に特例子会社「ライオンともに(株)」を設立し、障がい者の雇用と活躍を推進しています。

「ライオンともに(株)」には22名の従業員および5名の指導員（2017年12月末現在）がおり、社内の連絡便の管理、ライオン(株)全社員の名刺印刷業務などを行っています。

ワーク・ライフ・バランスの推進

当社では、従業員がワーク・ライフ・バランスを重視しながら、仕事の成果を生み出せるように、就業環境の整備を進めています。

●健康でいきいきと働ける職場づくり

2010年から長時間労働の削減と有給休暇の取得促進に取り組んでいます。2017年は、週1回の「ノー残業デー」および月1回の「ノー残業週間」を実施しました。労働時間管理に対する理解促進のため、全従業員に対してe-ラーニングを毎年実施しています。また、目標である有給休暇取得率70%の達成に向けて、労使協定締結のもと、年3日間を計画的に取得する取り組みを実施しました。今後も取り組みを推進します。(目標を60%から引き上げました。)

●仕事と介護 両立支援施策

社員が安心して働き続けることのできる環境整備のひとつとして、介護に関わる社員への支援を強化しています。通常の年次有給休暇のほか、医療介護積立休暇(年次有給休暇失効分の積み立て)、介護短時間勤務(ショートタイムフレックス制度)、介護休業365日(1日単位で取得可能)など、介護に関する制度を整備しています。同時に、40才以上を対象に介護支援Webサイトを導入し、介護に関する情報提供の充実をはかっています。

●在宅勤務制度

2015年より、働く場所を職場に限定しない柔軟な働き方として在宅勤務制度を導入し、業務の生産性向上とワーク・ライフ・バランスの改善に取り組んでいます。制度の理解と浸透をはかるため、説明会や個別の職場ヒアリングを繰り返し実施し、制度の利用促進効果の確認を行いながら対象の拡大を行い、年々利用者が増加しています。

●次世代法への取り組み

当社は、次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画を策定し、取り組んでいます。その結果、第1期から第4期まですべて計画を達成し子育てサポート企業の認定(くるみんマーク)を受けています。

●次世代育成支援対策推進法への取り組み

次世代法第5期行動計画

第5期行動計画では、期間を2015年4月～2018年12月*に定め、4つの目標を掲げています。

*次世代法行動計画の期間を変更しました。



目標1 計画期間内に、育児休業中社員のスムーズな職場復帰のための支援策を実施する。

→育児休業者と上司向けの個別制度説明会を開始(2016年1月以降都度実施)

→職場復帰前の「復職前セミナー」を実施(2015年10月以降、毎年春と秋に実施)

→育児休業中社員のキャリアと育児の両立を支援する「復職と育児の支援Webサイト」を導入(2016年2月)

目標2 計画期間内に、女性活躍推進に向けた社内風土醸成の施策を実施する。

→「ライオンの女性活躍 本音で語る交流会」を開催(2016年6月)

→第4回、第5回、第6回キャリアフォーラムを開催(2015年・2016年・2017年)

目標3 計画期間内に、男性の育児休業取得者を13名以上にする。

→15名取得済み(2017年12月時点)

目標4 計画期間内に在宅勤務制度の理解、利用を促進し、制度定着のための支援策を実施する。

→職場ヒアリング、社内報の活用などで利用促進を実施中

●社員関連データ

		2015年	2016年	2017年
社員数	男性	2,268	2,239	2,203
	女性	758	775	821
女性比率		25.0%	25.7%	27.1%
新入社員数*1 (新卒)	男性	57	49	57
	女性	28	29	36
定年退職者 再雇用	人数	262	250	216
	率	8.7%	8.3%	7.1%
臨時雇用者数		461	467	458
女性 マネジメント層	人数	135	149	170
	率	12.0%	12.9%	14.4%
障がい者 雇用	人数	51	55	63
	率	2.0%	2.2%	2.4%
育児休業 取得者数	男性	5	2	8
	女性	33	53	57
育児短時間 勤務取得者数	男性	0	0	0
	女性	58	40	57
月平均所定外労働時間*1		12.1	12.3	12.5
年次有給休暇取得率		51.8%	55.1%	51.8%
平均勤続年数 (再雇用者除く)	男性	19.8	20.3	20.4
	女性	17.4	18.0	18.0
入社3年後 までの離職*1	人数	6	4	1
	率	2.4%	1.6%	0.4%

*1 過去のデータに誤りがあり、数値を修正しました。

対象範囲: 単体(出向者含む)

(女性マネジメント層については単体(出向者除く))

国内グループ会社の社員関連データはWebで開示しています。

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/various/>

従業員の健康管理の推進

従業員の健康は「会社の健全な成長を支える経営基盤である」との考えを基本とし、従業員の健康の保持・増進を支えるため、生活習慣改善、口腔内の健康、メンタルヘルス対策、がん予防、喫煙対策などさまざまな施策を展開しています。

従業員の健康意識の向上、自発的な健康行動の実践を促す取り組みも展開しており、全ての従業員がいきいきと働き、充実した毎日を送ることが出来る企業を目指していきます。

【健康指針】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/company/compliance/health.php>

【「こころ」「からだ」「意識」への取り組み】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/health/>

●健康管理への組織的な取り組み

当社は、全社健康管理責任者(人事部長)が全社の健康管理全般についての統括を行い、健康サポート室、健康保険組合、各事業所の健康管理責任者、産業保健スタッフ(産業医・保健師など)が連携し、組織的に従業員の健康管理を推進しています。

●メンタルヘルスへの取り組み

2004年に「メンタルヘルス基本方針」を制定し、厚生労働省の「労働者の心の健康の保持増進のための指針」に基づき、心のケアを継続的かつ計画的に推進

ライオングループの労働安全衛生管理体制の充実

グループ目標である「オールライオン重大事故0件・重大災害0件」に向けて、労働安全衛生管理体制の強化に取り組んでいます。経営トップを議長とした「安全衛生防災会議」を年2回実施し、全社における設備安全、労働安全などに関するリスクの徹底的な排除へ向けた取り組みを継続的に推進しています。

厚生労働省の指針に基づく「労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)」に防災を付加した独自の「安全衛生防災マネジメントシステム」を2009年から国内グループ会社を含め運用を開始し、安全衛生防災活動の水準の向上に努めています。

また、海外グループ会社に対しても、国内から労働災害の防止に向けた支援を積極的に行っています。2018年から、経営直下に「安全防災推進室」を設置し、ライオングループの労働安全衛生防災管理体制をさらに強化しました。

労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)

PDCAにより継続的な安全衛生管理を自主的に進める仕組み。

●労働安全

2017年の労働災害件数は22件(通勤途上災害2件

しています。

2017年は96%の社員がストレスチェックを受け、その結果は個人を特定できない形式で部所ごとに集計・分析し、担当役員へのフィードバックや、管理職教育での活用など、組織的なメンタルヘルスへの取り組みを継続しています。

ストレスチェック

従業員の心理的な負担を把握するための検査。労働安全衛生法の改正により2015年12月に義務化された。

●予防歯科プログラム(ALOHA)

2002年度の定期健康診断より、公益財団法人ライオン歯科衛生研究所(LDH)と協力して従業員全員を対象とした歯科健診を導入し毎年実施しています。2016年からe-ラーニングシステム(L-navi)によるオーラルヘルスケア情報の提供や、唾液を使って、その場ですぐにむし歯と歯周病のリスク、口腔内の清潔度などが測定できる「多項目唾液検査システム」を導入し、口腔カメラを使った口腔保健指導を実施しています。従業員のオーラルヘルスケアへの予防意識の向上と健康行動の実践を目指しています。

【ALOHA】All Lion Oral Health Activity

【ライオン従業員の歯科データ】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/health/>

除く)となりました。労働災害に対しては、本社安全管理事務局が現地調査を行い、原因究明と是正対応の徹底をはかっています。労働災害防止のためには、安全管理体制および労働安全意識の強化が重要であり、今後も個人の安全意識や感性をさらに高める施策を推進します。

2017年 危険体感教育(安全研修)に参加した従業員人数(社内教育)

千葉工場	小田原工場	大阪工場	明石工場	合計
429名	39名	138名	135名	741名

●設備安全

当社は、安全を保つための設備点検においては日頃の日常点検や、定修時の保守点検に取り組んでいます。保守点検を確実に行うことにより、故障や事故を未然に防ぐことにつなげています。2017年の設備事故件数は0件でした。今後も、従業員の技術ノウハウの継承や設備教育にも力を入れて取り組んでいきます。

Webサイトのご紹介

従業員とともに
<http://www.lion.co.jp/ja/csr/employee/>



基本的な考え方

当社は2013年に環境目標「Eco Vision 2020」を策定しました。「Eco Vision 2020」をはじめ、当社の環境活動に対する考え方を表したのが「ライオンの環境への想い」です。ここから生まれた環境スローガンが「暮らし、まいにち、エコ。」です。

「低炭素社会の実現」、「循環型社会の実現」、「自然との共生」を目指した目標値の達成と合わせて、商品を通じたお客様への環境啓発などのコミュニケーションにも取り組みます。



環境方針

当社は環境方針を、「経済発展と環境保全が両立する持続可能な社会を創造していくため、自主的、積極的に行動する」という「ライオン企業行動憲章」の精神に基づいて定めています。

2013年には、「Eco Vision 2020」の策定に合わせて環境方針を改定しました。「低炭素社会の実現」、「循環型社会の実現」、「自然との共生」に対する当社の姿勢や海外への取り組み姿勢などを、より明確に表現しています。

環境方針

製品の開発から原材料などの調達、製造、流通、販売、お客様の使用・廃棄までのすべての過程で「地球温暖化防止のための低炭素社会の実現」、「資源の循環的・有効活用による循環型社会の実現」、「人々の健康や自然生態系、生物多様性を保全するための自然との共生」に配慮し、地球環境への影響を可能な限り減少させるよう、自主的・積極的に行動します。

1. 持続可能な社会をめざす

環境マネジメントシステムを推進し、継続的な維持、改善により地球環境の保全を行う。

2. 法的およびその他の要求事項の遵守

環境保全に関する法規制や取り決めを遵守し、自主的な行動基準を設定して実行する。

3. 環境目的、目標の設定と実施の検証

国内外における企業活動の環境影響を的確に捉え、技術的・経済的に可能な範囲で、改善の目的および目標を設定するとともに、環境マネジメントプログラムを策定、実施し、その実施状況を定期的に検証する。

4. 環境配慮製品の開発

ライフサイクルアセスメントの視点に基づき自ら定めた「ライオンエコ基準」に則り、環境に配慮した製品開発を積極的に推進する。

5. お取引先との連携による環境負荷の低減

原材料調達先や外部生産委託先、販売先と連携し、仕入れからお客様への商品提供に至るまでのあらゆる段階で、環境負荷の低減に努める。

6. 自然との共生

生物多様性や大気・水環境に配慮した事業活動を行うとともに、自然環境保護活動に積極的に取り組む。

7. 全従業員への周知と環境保全活動の推進

関係会社を含め全従業員に環境方針を周知し、環境保全への意識高揚に努め、全従業員一体となって環境管理活動を推進する。

8. 情報公開の推進

事業を取り巻くすべてのステークホルダーとのコミュニケーションの推進に努める。また、この環境方針は自由な閲覧を可能にして、要望する全ての人々に提供する。

(2013年1月1日改定)

環境管理体制とマネジメントシステム

● 環境マネジメントシステム

当社グループの環境マネジメントシステムは、事業活動、製品やサービスが環境におよぼす影響を把握、評価、是正するとともに、環境保全活動を継続的に改善することを目的としています。

また、環境マネジメントおよび活動報告については、グローバルな環境対応を目指して体制の充実をはかっており、海外グループ会社の環境データをWebページにて公開しています。

[関係会社工場環境負荷データ(海外)]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/report/pdf/environment-Management.pdf>

ISO14001 認証取得状況

当社は2001年7月に全工場一括でISO14001の認証を取得しました。2016年6月には、ISO14001の2015年版への更新を行い、日本能率協会審査登録センター(JMAQA)の審査により、全工場が基準に適合していることが確認されました。現在、生産系関係会社を含めて最新版のISO14001で運用管理しています。国内および海外の生産系関係会社も含めて、全社的にISO14001の取得やISO14001に準じた運用を実践し、管理システムと環境保全活動を継続的に進めています。

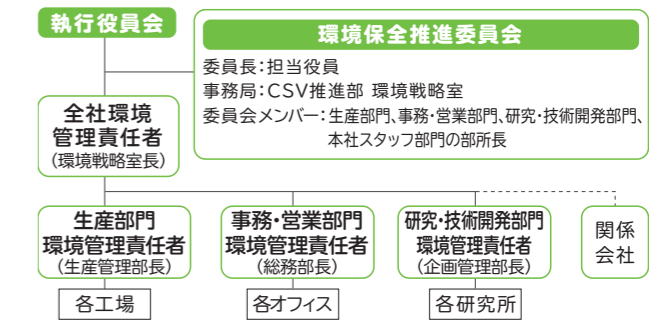
汚染の予防

当社は、窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)およびばいじんや揮発性有機化合物(VOC)などの化学物質の排出量削減にも自主的に取り組んでいます。また、排水処理設備の安定化と定期的な保全により、化学的

[生産系事業所環境データ]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/report/pdf/domestic.pdf>

● 環境管理体制



● 法規制の遵守

当社では、省エネ法*1 および温対法*2、化管法*3、化審法*4、廃掃法*5 など環境関連法規制の改正への対応については、行政や工業会などから提供される情報を収集後、化学物質関連法規情報のイントラネット活用システムに登録し、関連する部門に周知・徹底しています。

また、「廃棄物管理規程」などを定め、漏れのない管理体制を構築しています。2017年においても罰金、料料などを処せられるような違反はありませんでした。

素要求量(COD)の低減にも努めています。

化管法PRTR制度*6に基づく化学物質管理に関するデータは、Webサイト上に公開しています。今後も、適正な届出と排出量の管理を強化していきます。

[2017年度PRTR対象物質の排出量(国内グループ)]

URL http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/enhancement/pdf/prevention_2017.pdf

*1 省エネ法

「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」の略称。

*4 化審法

「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」の略称。

*2 温対法

「地球温暖化対策の推進に関する法律」の略称。

*5 廃掃法

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の略称。

*3 化管法

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」の略称。

*6 化管法PRTR制度

化学物質の排出量などを把握し、集計・公表する制度。

ライオングループの化学物質管理の充実

化学物質は、生活を便利で快適にする上で欠かせないものですが、適切な管理を怠り事故が起きた場合、人々の健康や環境に大きな影響を与えるおそれがあります。当社では、関連法規の遵守はもちろん、独自の基準に基

づき、製品の開発から使用・廃棄までの各段階で、化学物質の安全管理を推進しています。

[化学物質管理]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/enhancement/>

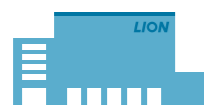
● 当社の化学物質管理

① 製品開発

② 生産

③ 輸送

④ 使用・廃棄



原材料中の化学物質の安全性確認と管理



化学物質製造量の把握と排出量の削減



輸送時の安全性情報の提供



化学製品の安全性および取り扱いに関する情報の提供

「化学物質情報管理システム」をライオンの研究開発拠点で運用開始

2018年1月より「化学物質情報管理システム」を当社の研究開発拠点で運用を開始しました。

本システムは、「原料、製品組成に関するデータ」、「法令情報データ」のデータベースと「製品組成開発機能」で構成されています。導入により、当社における全事業分野での自社製品の開発において、使用する化学物質に

関する法令遵守体制を強化するとともに、蓄積される組成データから上市後の製品に含まれる化学物質を即時検索することが可能となりました。これにより情報管理レベル向上とトレーサビリティの確保、コンプライアンス対応力の強化を実現していきます。

先進的な環境への取り組み

● 「Eco Vision 2020」第2期(2015~2017年)の実績と今後の計画

「Eco Vision 2020」は、2012~2020年の9年間を第1~第3の3期3カ年に分けて推進しています。2017年は、第2期(2015~2017年)の最終年でした。

第3期計画(2018~2020年)もこれまでと同様、ライオングループ従業員が一丸となって環境への取り組みを推進していきます。

重要な5項目について

【国内の事業活動からの温室効果ガス排出量】

2017年の実績は47%削減(1990年比、売上高原単位)と前年の43%削減(同上)よりさらに削減することができました。前年に引き続き生産設備の集約や全事業所で省エネ活動を実施することにより、削減を推進しました。今後も2020年目標の達成に向けて取り組みを進めます。

【国内の商品使用後の温室効果ガス排出量】

排出削減のために、商品のコンパクト化や石油原料からCO₂の増加につながらない植物原料への切り替えなどを進めています。2017年の排出量は53%削減(1990年比、売上高原単位)と前年の52%削減(同上)よりもさらに削減することができました。今後も目標に向けて、同様の取り組みを進めます。

【海外の事業活動からの温室効果ガス排出量】

2017年の実績は6%削減(2014年比、生産量原単位)、年平均では2%削減と目標の毎年1%削減を達成しました。各工場における省エネ施策が削減に寄与しました。今後も海外における省エネのための施策の立案に取り組み、実施します。

【国内の事業活動での水使用量】

2017年の実績は50%削減(2000年比、売上高原単位)でした。全事業所での節水活動および下記の工場の製造工程排水リサイクルが寄与し、2020年目標の35%以上削減(同上)を上回る水準で推移しています。今後も継続して削減に努めます。

【工場排水のリサイクル】

2016年から千葉工場において製造工程排水リサイクル設備が稼働しています。排水量はもちろん、水使用量の削減にも貢献しています。

● 「Eco Vision 2020」第2期(2017年)実績値と目標値表

項目		2017年実績値	第2期(2015~2017年)目標値	2020年目標値
低炭素社会の実現	事業所内 ①事業活動からの温室効果ガス削減	売上高原単位 32%削減(2010年比) 47%削減(1990年比) 絶対量 47%削減(1990年比)	売上高原単位 23%削減(2010年比) 40%削減(1990年比) 絶対量 41%削減(1990年比)	売上高原単位 34%削減(2010年比) 49%削減(1990年比) 絶対量 40%削減(1990年比)
	事業所外 ②商品使用後に排出される温室効果ガス削減	売上高原単位 9%削減(2010年比) 53%削減(1990年比) 絶対量 51%削減(1990年比)	売上高原単位 7%削減(2010年比) 52%削減(1990年比) 絶対量 51%削減(1990年比)	売上高原単位 9%削減(2010年比) 53%削減(1990年比) 絶対量 41%削減(1990年比)
	事業所内 ③海外の事業活動*1からの温室効果ガス削減	生産量原単位 3年間で6%削減(2014年比)	生産量原単位 毎年1%削減(2014年比)	生産量原単位 毎年1%削減
	事業所外 ④海外の商品使用後に排出される温室効果ガス削減	年間6.6万トン削減	-	年間10万トン削減
循環型社会の実現	事業所内 ⑤事業活動での水使用量削減	売上高原単位 35%削減(2010年比) 50%削減(2000年比) 絶対量 49%削減(2000年比)	売上高原単位 15%削減(2010年比) 34%削減(2000年比) 絶対量 35%削減(2000年比)	売上高原単位 15%削減(2010年比) 35%削減(2000年比) 絶対量 23%削減(2000年比)
	事業所外 ⑥商品使用時の水使用量削減	売上高原単位 27%削減(2010年比) 52%削減(2000年比) 絶対量 51%削減(2000年比)	売上高原単位 15%削減(2010年比) 44%削減(2000年比) 絶対量 44%削減(2000年比)	売上高原単位 17%削減(2010年比) 45%削減(2000年比) 絶対量 33%削減(2000年比)
	廃棄物 ⑦事業所でのゼロエミッション*2	国内全事業所*4でゼロエミッション達成	-	国内全事業所*4でゼロエミッション化
排水 ⑧工場排水*3のリサイクル	千葉工場における製造工程排水リサイクル安定稼働中	-	複数工場で工場排水をリサイクル	
自然共生	調達 ⑨生物多様性に配慮した植物油脂の調達	RSPO*5認証パーム油誘導体の購入継続	-	全購入パーム油誘導体のRSPO認証化
	生物多様性 ⑩生物多様性保全活動の活発化	ライオン単体全工場での実施、関係会社・オフィス系事業所での実施拡大	-	国内全事業所での実施
啓発 社会への意識啓発	⑪お客様への環境啓発活発化	啓発活動へのお客様参加人数の1.8倍増(2010年比)	啓発活動へのお客様参加人数の1.8倍増(2010年比)	啓発活動へのお客様参加人数の倍増(2010年比)

*1 対象範囲は2017年12月31日現在の連結子会社

*2 廃棄物総発生量の直接埋立率を1%以下とする

*3 製造工程で発生する排水

*4 千葉工場、小田原工場、大阪工場、明石工場、平井事業所、札幌オフィス、仙台オフィス、本社・東京オフィス、名古屋オフィス、大阪オフィス、福岡オフィス、ライオンケミカル(株)ファインケミカル事業所、ライオンケミカル(株)オレオケミカル事業所、ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ(株)四日市工場、ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ(株)小野工場、ライオンパッケージング(株)福島工場

*5 Roundtable on Sustainable Palm Oil (持続可能なパーム油のための円卓会議)

● 自然との共生

湖沼の富栄養化や洗剤の使用と関係のある河川の発泡などの水環境問題に、古くから率先して対応してきた当社は、原材料調達から廃棄までのすべての段階で生物多様性に配慮してきました。しかし、将来にわたり生物多様性の恵みを楽しむためには、地域社会などと連携して生物多様性の保全に取り組み、その恵みを使い果たすことのないよう、持続可能な利用を進める必要があります。また、生物多様性に配慮した製品を通して生活者のライフスタイルの変化を促し、自然共生社会の実現

に向けて貢献することが重要です。そこで当社は、サプライチェーンに沿って、事業活動で利用している天然資源や事業の生物多様性への影響を把握し、リスクの低減と機会の拡大につながる生物多様性保全活動を行うことで、事業を通じて持続可能な社会の発展に貢献します。また、環境教育の一環として、従業員一人ひとりが生物多様性保全活動に参画することにより、生物多様性保全に対する意識を全事業所に浸透させます。

➡ 関連情報 **ハイライト3** p.31-34

当社の生物多様性保全に配慮した事業活動の全体像

当社が依存している生物多様性	原材料生産地の流域*生態系	各工場が立地する流域生態系	消費者が生活する流域生態系	
	原材料調達	生産	消費者による使用	消費者による廃棄
当社が利用している主な天然資源	●使用原料となる植物(アブラヤシなど) ●包装材料である紙の原料となる木材	●工場で使用する冷却水、設備洗浄水などの原水	●商品使用時の上水	—
当社の活動が生物多様性に与える主な影響	●パーム油農園の自然環境や地域社会への影響(熱帯雨林の違法伐採による野生生物の生息地への影響など) ●紙の原料となる森林環境の損傷	●工場での地下水などの取水による、周辺の自然環境や地域社会への影響 ●工場からの排水や排ガスによる周辺の自然環境や地域社会への影響 ●工場で使用する光や香りなどによる周辺の自然環境や地域社会への影響	●消費者の水使用による自然環境や地域社会への影響	●消費者からの排水や包装材料の廃棄による自然環境や地域社会への影響
リスクの低減につながる活動	●持続可能なパーム油の調達の推進(RSPOへの参加、RSPO認証油の購入) ➡ 関連情報 p.50 ●森林の保全の推進(第三者認証紙の利用)	●工場廃棄物の削減 ➡ 関連情報 Web② ●工場の水使用量の削減 ➡ 関連情報 Web② ●浄化技術を組み合わせた排水の放流による河川、海などの生態系保全	●節水型商品の開発 ●生分解性の高い洗剤の開発 ➡ 関連情報 Web②	●界面活性剤の環境への影響調査 ➡ 関連情報 Web③
機会の拡大につながる活動	—	●工場が立地する流域での生物生息地の保全とモニタリング(アカウミガメ保護活動、ビオトープ整備活動、海岸の外來植物駆除活動、里山整備活動など) ➡ 関連情報 Web④ ➡ ハイライト3 p.31-34	●水・自然環境の配慮に関する普及・啓発活動(「ライオン山梨の森」の森林整備、「雨活アイデアコンテスト」の実施、「日本水環境学会」を通じた水環境研究支援) ➡ 関連情報 p.58	●3Rの推進(つめかえ、内容物の濃縮コンパクト化、再生ペット・薄肉化などの容器の開発) ➡ 関連情報 p.55、Web②

* 流域:水でつながる森林、河川、里山、干潟、海浜などの生態系。

● 低炭素社会・循環型社会の実現

当社は、原材料調達から廃棄までのすべての段階で、温室効果ガスの排出量削減や資源の循環利用・有効活用を進めています。詳細なデータは Web サイトに開示

ています。今後も低炭素社会・循環型社会の実現に向けて取り組みを推進していきます。

当社の低炭素社会・循環型社会の実現に向けた事業活動の全体像

	原材料調達	当社での活動	消費者による使用	消費者による廃棄
低炭素社会の実現に向けての活動	●植物原材料の使用による石油資源の代替推進 ➡ 関連情報 Web① ●バイオマス由来容器材料の使用による石油資源の削減	工場 ●生産プロセスの見直し、設備更新時における省エネ機器導入、商品のコンパクト化などによるエネルギー効率の向上 ➡ 関連情報 p.45 オフィス・事業所 ●事務・営業部門、研究・技術開発部門など全社による省エネ活動 出荷後の流通 ●商品輸送時のモーダルシフト化率向上 ●積載率向上などによる物流効率の向上 ➡ 関連情報 Web①	●商品を通じた環境意識の啓発(エコ基準を達成した商品に環境ラベルを付与) ➡ 関連情報 p.55 ●節電型商品による商品使用時の電力使用量の削減(洗濯時のすすぎ回数の減)	●植物原材料の使用による石油資源の代替推進 ●3Rの推進(つめかえ、内容物の濃縮コンパクト化、再生ペット・薄肉化などの容器の開発) ➡ 関連情報 p.55、Web②

	原材料調達	当社での活動	消費者による使用	消費者による廃棄
循環型社会の実現に向けての活動	●植物原材料の使用 ●リサイクル材料の使用	工場 ●事業所でのゼロエミッションの推進 ●製造工程排水のリサイクルや雨水活用による水使用量の削減 オフィス・事業所 ●全社的にグリーン購入を推進 ➡ 関連情報 Web②	●商品を通じた環境意識の啓発(エコ基準を達成した商品に環境ラベルを付与) ➡ 関連情報 p.55 ●節水型商品による商品使用時の水使用量の削減 ➡ 関連情報 Web②	●3Rの推進(つめかえ、内容物の濃縮コンパクト化、再生ペット・薄肉化などの容器の開発) ➡ 関連情報 p.55、Web② ●ハブラシリサイクルプログラムの推進

Web① [低炭素社会の実現] URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/climate/>
 Web② [循環型社会の実現] URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/resources/>
 Web③ [自然との共生] URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/biodiversity/>
 Web④ [各事業所での生物多様性保全への取り組み] URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/biodiversity/>

Webサイトのご紹介

地球環境とともに
<http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/>

暮らし、まいにち、エコ。
<http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/ecolon/>



公正な事業慣行

基本的な考え方

当社は「ライオン企業行動憲章」、「行動指針」に則り、「公正、透明、自由な競争、ならびに適正な取引」および「政治・行政との関係における健全で正常な関係の維持」に努めるとともに、取引先に

おける法令遵守についても要請しています。さらに、2009年に国連グローバル・コンパクトの10原則の支持を表明し、贈収賄などの腐敗の防止への姿勢を明確にしています。

CSR調達の推進

当社は、サプライチェーンにおける取り組みにおいて、原材料メーカーや生産委託先との連携を強化することが重要な課題のひとつと考えています。事業活動の環境や社会に対するマイナスの影響を低減させ、お互いの事業を持続的に発展させるため、取引先と当社とがサステナビリティを深化させることが必要です。

また、当社の主要な植物油原料であるパーム油において、持続可能な調達を推進することが重要であると認識し、取り組みを進めています。

植物資源への代替推進

当社は独自に、再生可能な植物由来原料「MES」・「MEE」*を開発し、衣料用洗剤などの商品に使用しています。今後も植物原料の活用に努めます。

* MES：アルファスルホ脂肪酸エステルナトリウム
MEE：ポリオキシエチレン脂肪酸メチルエステル

【石油からの植物資源への代替推進】

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/env/climate/>

ライオングループサプライヤーCSRガイドライン

以下に示す5主題、21項目のガイドライン。

1. 人権・労働
2. 環境
3. 公正な事業慣行
4. 消費者課題
5. コンプライアンス

URL 日本語 <http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/pdf/jpn.pdf>

英語 <http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/pdf/eng.pdf>

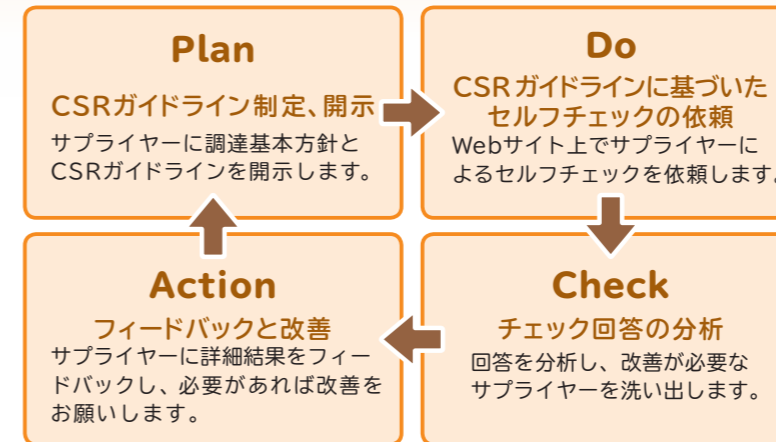
中国語 <http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/valuechain/pdf/cn.pdf>

● CSR調達の取り組み年表

2005年	原材料や製品の適正な調達のための「購買に関する基本方針」を制定。
2008年	社会面、環境面への配慮をより明確にした「調達基本方針」を制定。国内外の原材料メーカーや生産委託先にコンプライアンス、製品サービスの品質・安全性、環境配慮、労働・人権、公正な取引に関する企業活動のアンケートを実施。
2013年	「調達基本方針」を改訂し、法令遵守、環境保全、人権尊重などからも取引先を選定する姿勢を明確化。原材料メーカーや生産委託先に期待するサステナビリティへの取り組みを示した「ライオングループサプライヤーCSRガイドライン」を制定し、取引先に自社のサステナビリティへの取り組みのセルフチェックを依頼。
2014年	CSRのセルフチェックをすべてWeb上で実施できるようオンライン化。

【調達基本方針】URL <http://www.lion.co.jp/ja/company/compliance/procurement.php>

● サプライヤーCSRセルフチェックにおけるPDCAサイクル



サステナビリティに取り組む重要性をサプライヤーに理解していただくため、セルフチェックの依頼文書において、サステナビリティを取りまく情勢の説明を記載するなど工夫をしています。セルフチェックは取り組みの程度に応じた3段階のチェック基準と用語解説を設けています。

結果概要

- 2017年の回答率は99%、平均点は1~3点の3段階で2.74点と、サプライチェーン全体でサステナビリティに取り組んでいることが確認できました。
- 未回答の5社のサプライヤーに対しては、ヒアリングなどを通じて協力をお願いしています。

● 持続可能なパーム油の調達を目指して

当社は、枯渇することがなく、カーボンニュートラルな原料である植物原料の活用を積極的に進めており、その植物原料のひとつとして、世界で最も生産量の多い植物油であるパーム油の誘導体を使用しています。パーム油は主にマレーシアやインドネシアで生産されています。

パーム油は生産性が高く年間を通じて収穫できることから生産量は年々増加していますが、生産地においては急激な生産拡大にともない、新規農園開発のための熱帯雨林の伐採やそれともなう野生生物の生息地の縮小などの問題が生じています。また不適切な農園経営による、健康や安全への配慮が乏しい劣悪な労働環境や、低賃金、移民労働者の不当な扱い、児童労働など、社会的公正を欠くさまざまな労使問題も指摘されています。

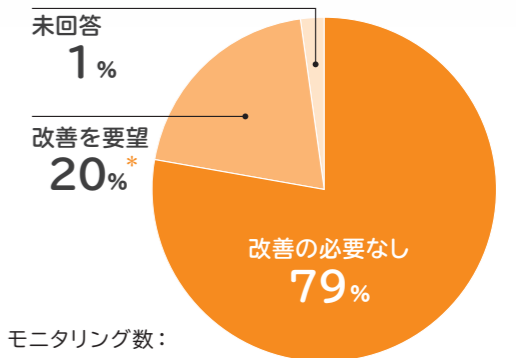
このような問題の解決に向けた「持続可能なパーム

RSPO
Roundtable on Sustainable Palm Oil
(持続可能なパーム油のための円卓会議)

RSPOでは、「環境に対する責任と資源及び生物多様性保全」「新規プランテーションにおける責任ある開発」「農園、工場の従業員および、影響を受ける地域住民への責任ある配慮」などの持続可能なパーム油生産に求められる8原則と基準を定めており、これを満たして生産されるパーム油のみを持続可能なパーム油として認証している。

URL <http://www.rspo.org/>

● ライオングループサプライヤーCSRガイドラインに基づくセルフチェック全体集計結果(2017年)



モニタリング数：
ライオン国内グループの
原材料メーカー・生産委託先、
計625社（国内：549、海外：76）

*2017年より、改善要望の基準を強化したため、改善を要望した比率が上昇しています。

油のための円卓会議（RSPO）」に、当社は2006年から参画しています。2012年には、パーム油が納入されるライオンケミカル（株）オレオケミカル事業所が、RSPO認証パーム油の取り扱いができる工場としてサプライチェーン認証システム審査に合格し、認定を受けました。これに基づいて当社は2012年からRSPOの認証が得られたパーム油の調達を開始しました。当社は2015年末までに、使用するパーム油をすべて認証油に切り換えることを目標に掲げ、2014年7月より購入パーム油を全量認証油化し、目標を達成しました。2017年は2020年目標の達成に向けてRSPO認証パーム油誘導体を継続購入しました。

今後も持続可能なパーム油の調達に向けて取り組みます。

目標

2020年：パーム油誘導体全量をRSPO認証化

Webサイトのご紹介

お取引先様とともに
<http://www.lion.co.jp/ja/csr/businesscustom/>



消費者課題

基本的な考え方

当社は、ものづくりのはじめから、お客様が商品を使い終わるまでのすべての段階で品質保証活動を推進し、お客様に満足していただける商品をお届けします。具体的には、製品企画、製品開発、生産、販売、お客様対応という企業活動のすべての段階においてポイントを定め、お客様満足を追求しています。

お客様からいただいた貴重なご意見などをもとに、ニーズをしっかりと把握して製品を企画し、製品

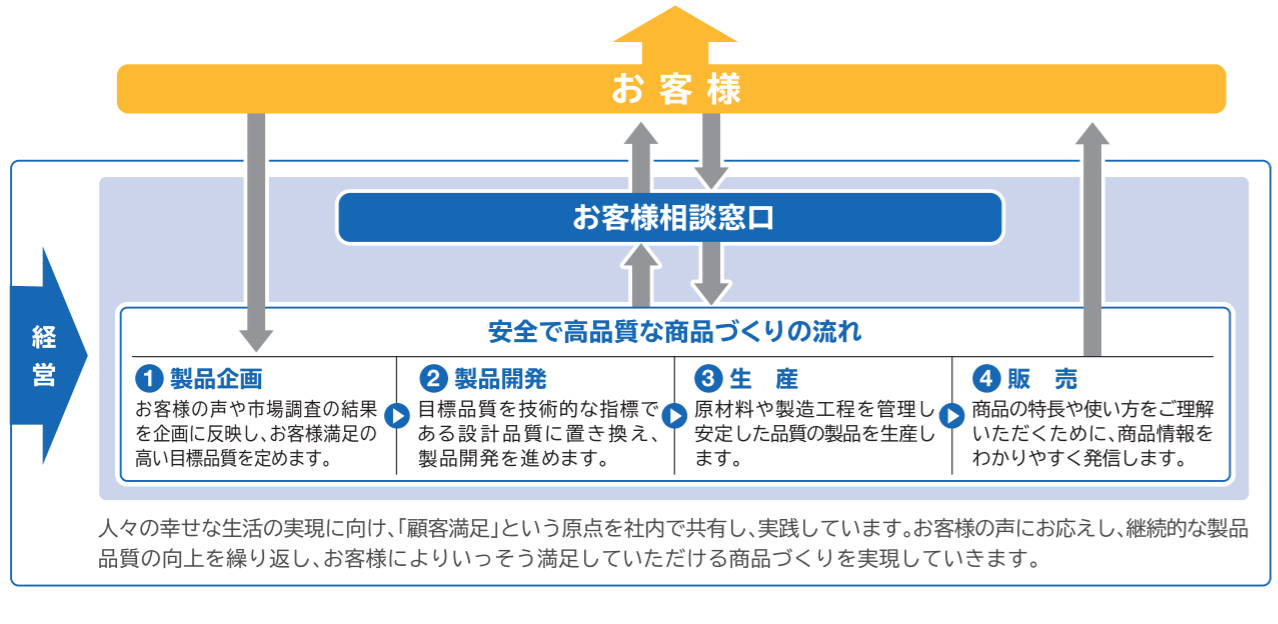
開発段階では、機能・性能などの7つの指標で品質を検証するとともに、お客様にとって「読みやすい」、「わかりやすい」表示を検討しています。

生産段階では、各工程で品質管理を徹底し、検査に合格したものを出荷します。出荷の際にはロット管理を徹底し、販売後の管理にも役立てています。

さらに卸店・販売店への商品説明や試供品の配布などを通じて、さまざまな情報を発信しています。

●お客様の声による商品づくり

お客様満足の最大化



ライオングループの信頼性保証体制

「日々の暮らしに役立つ優良製品の提供」を实践するために、「品質方針」に基づき、お客様のご要望に応える安全で高品質な商品づくりを推進しています。

2014年設立の「薬事・品質保証部」では、海外グループ会社を含めたオールライオンの品質保証体制および開発支援体制の構築を推進してきましたが、2018年より、企画から廃棄にわたるサプライ

チェーンにおいて製品マネジメントシステム (Quality Management System) を軸としたさらなる品質保証を目的に「信頼性保証部」を設立しました。今後も、社会的な品質要求レベルの高まりや国内外のグループ会社の業容の拡大に伴って多様化するお客様の要望に応え、安全で高品質な商品をお客様にお届けします。

●安全で高品質な商品づくり

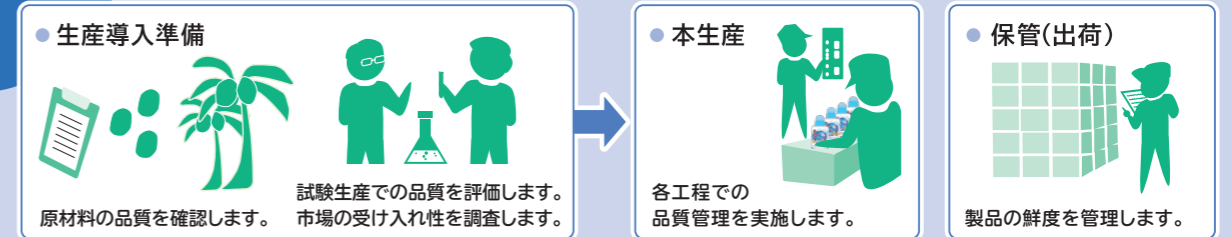
1 製品企画 お客様により満足していただける商品を企画



2 製品開発 品質・安全に留意した製品の具現化



3 生産 量産体制での品質確認



4 販売 商品品質の情報提供



●安全・安心への取り組み

お客様に商品を安心してお使いいただけるよう、原材料および商品使用時の安全性について評価しています。

原材料の安全性

原材料は、まず安全性を調査確認した上で、さらに一定の品質を確保するためにサンプル評価や相手先調査などを実施後、使用の可否を決定します。使用に際しては、医薬品、医薬部外品・化粧品、食品、雑貨に区分し、それぞれの区分に見合った検査項目と試験法に基づいて品質検査を実施後、使用しています。

[原材料の安全性]
URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/consumer/quality/>

商品使用時の安全性

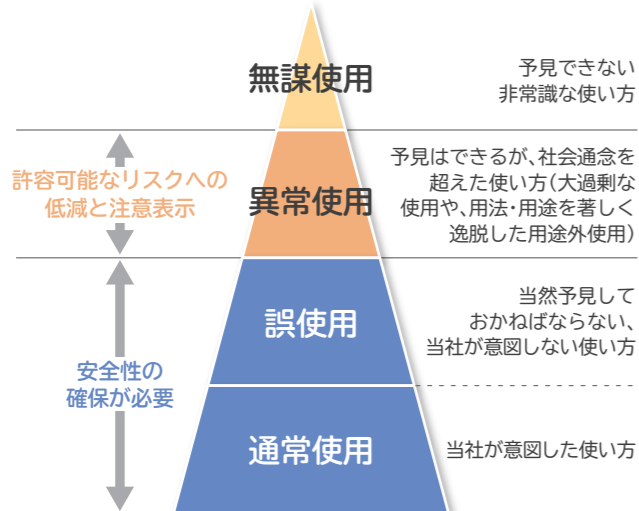
お客様のさまざまな商品の使い方や社会的弱者の方々に配慮し、製品設計の段階でリスクを回避するという考えのもと、製品の安全性評価を実施しています。

評価はチェックシートを用い、「通常使用」～「誤使用」までの安全性が製品設計の段階で確保できているかを確認します。「異常使用」の場合であっても、リスクの低減が可能かどうか、リスクは許容できるかどうかを評価し、必要に応じて注意表示を十分に行うなど製品の安全性確保へ反映させています。

また、関連する部門から構成される品質確認検討会において、商品の使用に関わる被害の防止、安全性を確認すべき項目の抜け防止を目的に、お客様の使用場面を想定した視点からのチェックを実施しています。

万が一の製品トラブルが生じた場合に備え、製品リコールなどが迅速にできるよう社内体制を整備しています。

●安全性確保の範囲



●広告管理体制の強化

当社は、販売するすべての商品（食品・医薬品含む）における責任ある宣伝・広告活動を目指し、広告管理体制の強化を推進しています。

- ①食品を含む当社全製品分野の広告チェック体制の強化
 - ②消費者庁などの行政相談の適宜実施
 - ③社員への法規教育の徹底
- 今後も責任ある広告活動推進に向けて広告管理体制の強化に努めます。

●お客様の声にお応えする取り組み

お客様からいただいたご相談は、製品の改良や新しい製品の開発、サービスの向上に活かすために、厳重な個人情報管理体制のもとでデータベースに登録した後、個人情報を除いて情報共有化システムにて全社で共有しています。なかでもお客様満足に影響を与えると思われるものや、日々接するお客様の声からの気づきをVOC^{*1} デイリーレターとして経営層に日々報告し、お客様視点の把握や企画部門を中心に改善策の早期検討・早期対応による品質向上に努めています。2017年は242件のVOC デイリーレターを発信しました。また、電話やメールなどで寄せられるお客様の声のみならず、SNS^{*2} などからも生活者の声を幅広く集め、解析をしています。さらに、お客様視点を事業活動に活用していくため、専任組織がお客様の声を分析し、社内の各部門へ積極的に情報発信しています。

*1 [VOC] Voice of Customer (お客様の声)
*2 [SNS] Social Networking Service (Facebook, Twitter など)

バルサン氷殺ジェット回収状況

『バルサン 飛ぶ虫氷殺ジェット』『バルサン 這う虫氷殺ジェット』は、引火事故が発生し、2007年8月27日より自主回収を実施しております。2017年12月末現在、148万本(回収率45.7%)を回収しております。お手元に当該製品をお持ちの方は、回収にご協力くださいますようお願い申し上げます。

バルサン氷殺ジェット回収専用お客様相談窓口

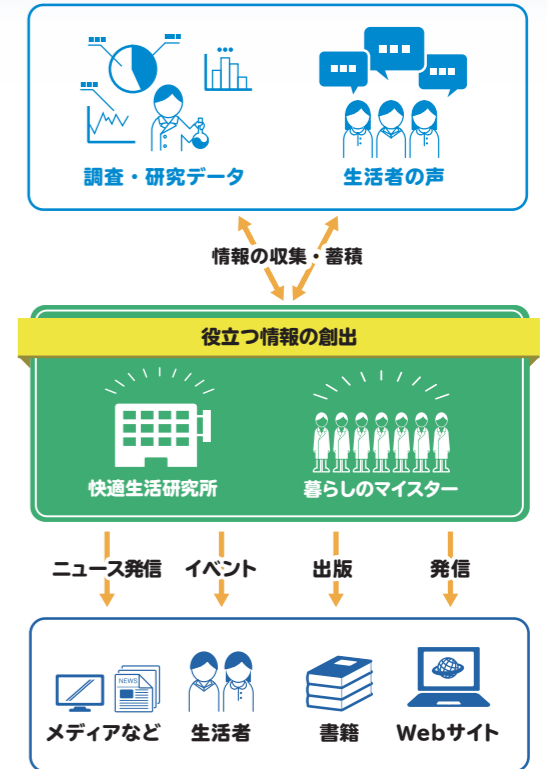
電話(フリーダイヤル): 0120-670-225
受付時間: 午前9時～午後5時
(土・日・祝日、年末年始、夏季休暇を除く)

くらしに役立つ生活情報の発信と啓発活動

ライオン快適生活研究所では健康で快適な生活に寄与する生活情報づくりと発信の拡大を目指し、生活者の皆様と積極的にコミュニケーションをはかっています。



行政主催の消費生活イベント



●生活情報メディア「Lidea」(リディア)を活用したお客様とのコミュニケーション

Lideaは、「日々のくらしを快適にする」そして「ココロが彩られるような楽しいidea (= 知恵や情報) を皆様と共有する」ための生活情報メディアです。専門知識を持つ生活情報のスペシャリスト「暮らしのマイスター」が中心となって、皆様のくらしに寄り添った確かな情報を提供しています。



Lideaに蓄積された情報を活用して、さまざまな形で生活者とのコミュニケーションを深めていきます。

生活情報を紙面にまとめ、生活者に提供



知っ得情報
生活者からお寄せいただくお問い合わせ内容などを分析し、ニーズに合わせた生活情報を紙面にまとめて提供しています。

生活者との双方向コミュニケーション



Lidea 夫婦円満都市推進プロジェクト
イベントなどを開催し、生活者に対して直接情報を発信したり意見交換を行っています。

メディアを通じた情報発信の拡大



生活情報懇談会
TV・新聞・雑誌・Webなどの記者・編集者に対して、定期的に生活情報セミナーなどを開催しています。

海外の生活者への情報発信



海外グループ会社 Webサイト
各国・地域の生活習慣に合わせた生活情報を海外グループ会社のWebサイトに掲載しています。

持続可能な社会の発展に貢献する商品・情報の提供

● 3Rの推進

当社は、容器・包装材料削減のための取り組みとして、3R (Reduce: 使用量削減、Reuse: 再利用、Recycle: 再資源化) を積極的に推進しています。

[ライオン エコ基準]

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/ecolion/>



● 商品を通じた環境コミュニケーションの推進

当社は、生活者に商品を通じて環境配慮の重要性を啓発するため、製品ライフサイクルの視点から評価項目を設定した当社独自の「ライオン エコ基準」をクリアした商品に、「環境ロゴ」と環境に配慮した点を併記した「環境ラベル」を2014年より付与しています。

[暮らし、まいにち、エコ。](エコ商品の紹介)

URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/ecolion/>

● 「環境ラベル」付与商品例



『CHARMY Magica』本体



『トップ スーパーNANOX』本体・つめかえ



『トップ プラチナクリア』

情報セキュリティ対策の推進

当社は「個人情報保護法」に準拠した「個人情報管理規程」「情報取扱に関する基本方針」「情報管理規程」「情報セキュリティ規程」のほか、ソーシャルメディア(ソーシャルネットワークサービス、ブログなど)を従業員が利用するにあたり、適切な情報発信に努めるため、「ライオングループ ソーシャルメディアポリシー」および遵守すべき基本的なガイドラインを定め、個人情報保護と情報セキュリティの徹底をはかっています。

2015年には、社内の情報管理体制の強化を目的に、関連規程の改定をし、2017年は引き続きソーシャルメディアのリスク、情報セキュリティ、情報管理体制に関するe-ラーニングを全従業員が実施しました。

また、海外グループ会社においても、法令に基づき個人情報保護などの情報セキュリティを推進しています。

[ライオングループ ソーシャルメディアポリシー]

URL <http://www.lion.co.jp/smp.htm>

Webサイトのご紹介

お客様とともに
URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/consumer/>



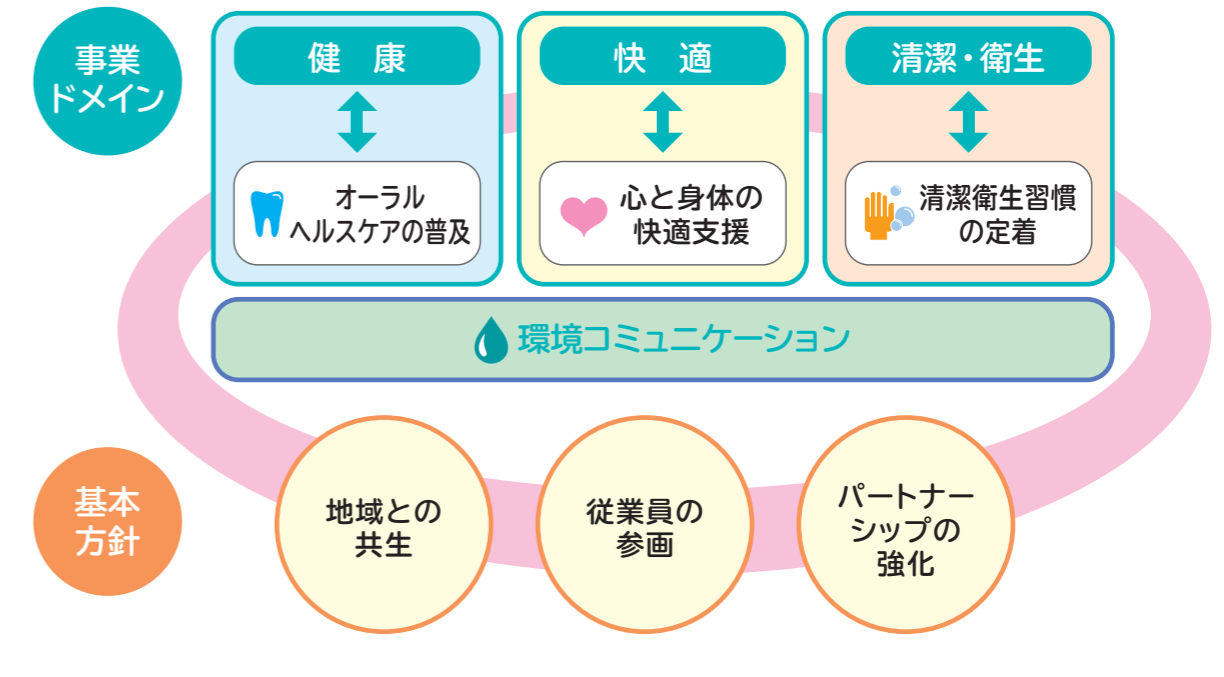
コミュニティへの参画および発展

基本的な考え方

当社は「事業を通じて社会に貢献する」という創業者小林富次郎の精神を受け継ぎ、一人ひとりの「心と身体のヘルスケア」の実現に向けて、健康、快適、清潔・衛生分野を通じてサステナブルな社会の発展および地球環境に貢献する活動に取り組んでいます。

また、当社の事業を継続するためには、事業所の所在地などゆかりのある地域との共生が必要である

ことから、地域の住民の方々や行政、市民団体などと連携をはかり、地域社会の課題解決に取り組んでいます。さらに、事業に関連した啓発活動に従業員一人ひとりが参画する機会を増やすことで、高い社会・環境意識をベースに新しい価値を生み出す人材の育成につなげます。



健康、快適、清潔・衛生分野

一人ひとりの「心と身体のヘルスケア」の実現に向けた商品・サービスの提供とともに、積極的にオーラルヘルスケアの普及・心と身体の快適支援・清潔衛生習慣の定着活動に取り組んでいます。

例えば、歯科医院などでの「プロケア(プロフェッショナルケア)」と毎日の「セルフケア」の両方を

[一人ひとりの「心と身体のヘルスケア」の実現に向けて] URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/community/>

継続的に行う「予防歯科」推進活動や小学生を対象とした「全国小学生歯みがき大会」、マイスターを通じた快適支援活動、従業員が参加して実施する手洗い習慣普及活動などにライオングループ全体で取り組んでいます。

環境コミュニケーション

サステナブルな地球環境への貢献を目指し、環境コミュニケーションに取り組んでいます。

当社は「洗うこと」を通じて、常に水との深い関わりの中で事業を展開していることから、特に「水資

[環境コミュニケーション] URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/social/>

源保護活動」に重点を置いています。山梨市での地域の皆様と従業員の共働による森林整備活動や、小中学生の水環境意識の啓発を目的とした「雨活アイデアコンテスト」などがあります。

健康で快適な生活習慣づくりにつながる社会貢献プログラムの充実

財団を通じたオーラルヘルスケアの普及活動

当社は、「企業活動で得た利益を社会に還元する」という創業当時から一貫した理念のもと、1913年から口腔保健の普及・啓発活動を行ってきました。1964年に厚生省(当時)認可の財団法人ライオン歯科衛生研究所(LDH)を設立し、2010年には内閣府から公益財団法人への移行認定を受け、公益財団法人としてスタートしました。LDHは引き続き、日本歯科医師会、大学、行政などと連携しながら下記の3つの公益事業を通じ、生活者の歯と口の健康を保持増進し、すべての人々の生活の質の向上に結びつけられるよう口腔保健の最前線で社会に貢献しています。当社はその活動を全面的に支援しています。



「全国小学生歯みがき大会」に参加した小学校

● 全国小学生歯みがき大会

1932年から続いている「全国小学生歯みがき大会」は、小学生を対象に毎年「歯と口の健康週間」の時期(6月4日~10日)に合わせて開催しています。2017年の第74回大会は、これまでのインターネット配信による全国一斉実施方式から、大会期間内(10日間)に参加校が実施日を設定し、DVD教材を視聴して参加する方式へ変更しました。2017年は、2,893校、約16万名の小学生が参加しました。日本だけでなく、アジア各国・地域でも取り組んでいます。

参加小学生数 **累計 124万名**

LDHの3つの公益事業

1. 口腔保健普及啓発事業

すべてのライフステージでの口腔保健の普及啓発活動

2. 調査研究事業

健康寿命の延伸に向けた口腔保健の重要性に関わる調査研究ならびに各事業や活動を通じて得られた研究成果の専門家や生活者への情報発信

3. 教育研修事業

保健指導者や歯科専門家に対する各種セミナーや講演会を開催

[公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所]
URL <http://www.lion-dent-health.or.jp/>

● 2017年のLDHの主な活動



母子歯科保健活動

妊婦、乳幼児および園児とその保護者を対象に「歯と口の健康」を通じた子育て支援活動を実施。

参加者：乳幼児・園児 2,790名
保護者 377名

累計 **114万6千名**



学校歯科保健活動

児童・生徒や保護者に対する直接的な啓発活動と、保健指導者の活動に対する支援を実施。

参加者：児童・生徒 5,935名
保護者 162名
保健指導者 723名

累計 **2,327万2千名**



成人(産業)歯科保健活動

就業者を対象に、歯周病の予防と歯と口の健康の保持・増進に重点を置いた指導を実施。

受診者：21,271名

累計 **209万2千名**



高齢者歯科保健活動(2007年~)

いつまでも自分の歯と口で食べることができるように口腔機能の保持につながる支援を実施。

参加者：46,648名

累計 **7万3千名**



診療活動

リスクコントロール・デンティストリー*の考えに基づき、専門性が高く、質の高い診療および予防歯科活動を実施。

受診者：11,171名

累計 **184万7千名**

累計は財団設立(1964年)からの積算値

* [リスクコントロール・デンティストリー]

一人ひとりのむし歯や歯周病のリスクに応じてケアの方法を変えるオーダーメイドの歯科治療。

清潔衛生習慣の定着活動

当社は、生活者の皆様の健康・快適な毎日を目指して、『キレイキレイ』ブランドを中心とした正しい手洗い習慣の普及活動に取り組んでいます。

当社は「従業員が主体的に活動すること」を方針としており、2050年までには100%の社員が手洗い習慣普及活動に参加していることを目標としています。2012~2017年の間に851名の社員が参加しました(33%)。

また、同期間において、この活動に参加した園児数は約25,000名となっています。全国の事業所所在地、東日本大震災の被災地であり創業者のゆかりの地でもある宮城県石巻市、『キレイキレイ』ハンドソープの生産拠点である香川県坂出市などを主な活動地域とし、幼

● 災害時の清潔健康ケアの取り組み

特に健康に留意することが重要となる災害時の清潔・健康ケア情報の提供にも取り組んでおり、「災害時の清潔・健康ケア」パンフレット・ポスターを作成・配布しています。

2017年より全国事業所所在地の地域の皆様に向けた啓発活動を行っています。今後も、清潔衛生習慣の定着に貢献します。



「災害時の清潔・健康ケア」パンフレット・ポスター
URL <http://www.lion.co.jp/ja/emergency-care/>

環境コミュニケーションの取り組み

当社は「洗うこと」を通じて、常に水と深く関わってきました。水資源保護活動としての森林整備活動、身近な水資源である雨水の活用の推進・啓発などに、積極的に取り組んでいます。

「ライオン山梨の森」森林整備活動

2006年から「ライオン山梨の森」で従業員の環境意識の醸成を目的に、水源である森林の整備活動を行っています。2017年は



2017年は新入社員研修と森林整備ボランティア(2回)に、のべ154名が参加しました。

参加従業員数 **累計 1,407名(のべ)**

[ライオン山梨の森]
URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/social/forest/>

「雨活アイデアコンテスト2017」の開催

全国の小中学生に、雨水の活用方法を考えることで水の大切さに気づいてもらうことを目的に、2011年から「雨活アイデアコンテスト」を開催しています。個人賞の



表彰のほか、優秀な作品を数多く応募いただいた小学校など2団体に団体奨励賞として雨水タンクの贈呈も行いました。

応募作品数 **累計 50,435作品**

[ライオン 雨の恵みひろば]
URL <http://www.lion.co.jp/ja/csr/social/rain/>

工場見学

工場見学はお客様と当社を結ぶ大切な接点のひとつと考えています。当社製品に親しむを持っていただき、安全・環境保全を第一とする操業状況をご覧いただくため、毎年多くの方に工場見学に来ていただいています。

2017年度工場見学の内訳	工場	千葉	小田原	大阪	明石	合計
見学回数		89回	86回	50回	89回	314回
見学者数		2,206名	1,936名	1,211名	2,320名	7,673名



大阪工場の工場見学の様子

第三者所見

新経営ビジョン・中計の策定に合わせて発行された「ライオン サステナビリティ レポート 2018」は、これまでのCSR報告書の基盤を継承しつつも、非財務情報開示に関する最近の潮流をふまえ、新たな課題に挑戦しています。昨年度までのレポートと比較して印象的なのが、全体を通じて経営戦略との接続が強く意識されている点です。

まず、トップメッセージにおいて2030年に向けた新たな経営ビジョン「次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーへ」が打ち出され、これに向けた新中計「LIVE計画」に絡めて、多様でオープンな人材・組織・文化を基盤に、新たな技術やサービスの新結合による事業価値創出を目指す、という貴社の「価値創造シナリオ」が明確に語られています。長期の時間軸を設定した点、SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」に焦点を絞ることで、取り組むべき社会課題を明確にした点、さらに、投入資本と関連させた価値創造シナリオを提示した点など、今回の新たな取り組みは、影響力を増しつつあるESG投資からの要請に対応したコンテンツといえるでしょう。事業を通じて社会課題の解決に貢献していく側面が強調され、守りのCSR経営から攻めのCSR経営（CSV経営）に転換しつつある様子がよく伝わってきます。社長を議長とするCSV推進会議の新設も、コーポレートガバナンスの面からこれを裏付ける取り組みといえ、今後CSVの推進・高度化に向けて経営層の関与が一層強化されることを期待させてくれます。

また、新中計に合わせて、リスクと機会の両面から「サステナビリティ重要課題」を特定し、バリューチェーンに沿って展開してみせる工夫からも、多岐にわたる社会課題を事業と一体的に把握しようとする意図が伝わってきます。特に、2020年に向けてオールライオンとして人権リスクマネジメントを強化することを謳っている点は、今後海外事業の拡大が期待される中で極めて重要な視点だと思います。

総じて、今回のサステナビリティレポートは、これまでの想定読者である消費者や従業員に対する分かりやすいコミュニケーションツールの性格を維持しつつ、足下の非財務情報開示のトレンドを取り入れるという難しい課題に挑戦した意欲作と位置づけることが出来ます。

今後については、今回取り入れられた新たな材料の相互関係をより分かりやすくしつつ、昨年までに蓄積したコンテンツに馴染ませていく工夫に期待したいと思います。例えば、「サステナビリティ重要課題」の柱の一つとして打ち出された「健康経営の実現」の見せ方です。早くから「健康指針」を掲げ、全社横断的な健康管理体制の下、予防歯科プログラムなど独自の取り組みを進めてきた貴社の長が活かせるテーマだと思います。それだけに、KPIが国内での各種健診受診率100%に留まっている点は惜まれます。「従業員がいきいきと働ける職場環境の整備を通じて、成長基盤である人的資本の充実をはかる」という観点から、もう少し込み込んだ、貴社らしいアウトカムにつながるKPIを検討してみるのはいかがでしょうか。一般に、スイッチングコストが低く、競争環境が厳しいといわれる日用品市場では、市場ニーズを的確に把握し、これを新商品に展開していくマーケティング力とイノベーション力が重視され、これを支える人的資本や技術力が差別化をもたらす非財務要素として関心を集めます。健康経営をキーワードに、人的資本の強化に向けた貴社の戦略を打ち出すことは、ESG投資の観点からも有意義と考えられます。こうした観点から整理することで、中期的に、社会課題から特定されたサステナビリティ重要課題と中計の基本戦略とが有機的につながり、非財務価値と経営戦略が文字通り一体化していくことが期待されます。

コミュニケーションツールとして新たな段階を迎えたレポートを通じて、多くのステークホルダーが貴社のCSV経営とこれを通じて実現される社会的価値への理解を深められることを期待したいと思います。



(株)日本政策投資銀行
執行役員
産業調査本部副本部長

竹ヶ原 啓介

ライオンから

ライオンは「事業を通じて社会のお役に立つ」という創業の精神のもと、時代とともに変化する社会課題に対して応え続けてきました。

デジタルトランスフォーメーションの進展などにより、今後ますます加速度を増すであろう、くらしや社会の変化に対応するため、本年、2030年までに実現したい姿として経営ビジョン「次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーへ」を設定し、2018年から2020年の中期経営計画「LIVE計画」を推進しています。

また、2018年1月より、社内組織、会議体を見直し、CSVを推進する体制を整え、サステナブルな社会への貢献と事業成長を同時実現する、より長期視点に立った経営を目指していきたいと考えています。

第三者所見で評価いただきました非財務情報と経営戦略の連動につきましては、「価値創造モデル」の開示など、ステークホルダーの皆様へ、よりわかりやすいレポートとなるよう工夫いたしました。

また、サステナブルな経営の実現を目指し、「LIVE計画」と連動したグループ全体で取り組むべき2020年サステナビリティ重要課題を特定し、目標設定を行いました。人権を尊重するグループ体制構築をはじめとしたリスクマネジメント体制の強化など、より強固な経営基盤を目指した取り組み、さ

らには人々の健康な生活習慣づくりなど、機会創出につながる取り組みを進めてまいります。

今後、海外連結子会社を含めてグループ全体での実効ある推進がはかれるよう、サステナビリティ推進体制を強化するとともに、長期的価値創造に向けて、経営戦略との統合をより一層進めていきます。

ご指摘のありました「健康経営の強化」につきましては、従業員のヘルスケア習慣の定着を目指し、当社の特性を活かした予防歯科プログラムを2002年から導入しています。今後は、海外を含むグループ全体への拡大も視野に入れ、次世代ヘルスケアのリーディングカンパニーに相応しい、ライオン流健康経営モデルを構築し、人的資本の強化を進めていきます。

今後もステークホルダーの皆様との対話や協働を通じて、サステナビリティへの取り組みを強化し、社会からの期待に応えられる信頼性の高い企業となるよう、経営を進めてまいります。



取締役 上席執行役員
CSV推進部 担当役員

小林 健二郎

社外団体への参加



ライオンは先進的な環境への取り組みが評価され環境大臣より「エコ・ファースト企業」として認定されています。

社外からの評価・認定



FTSE4Good



FTSE Blossom Japan





今日を愛する。

LION

発行者

ライオン株式会社

発行 2018年6月
次回発行予定 2019年6月

お問い合わせ先

ライオン株式会社 CSV推進部
〒130-8644 東京都墨田区本所1-3-7
[Webサイト] <http://www.lion.co.jp/>
[TEL] 03-3621-6275